

1 被害想定（危機管理部）

本市に被害を及ぼす地震は、南海トラフを震源とし、広域的な被害を特徴とするプレート境界型地震及び地殻上部の活断層を震源とし、局所的な被害を特徴とする内陸直下型地震である。

現在、国の中央防災会議及び三重県等が示している想定地震及びその被害想定は、以下のとおりである。

(1) 三重県地域防災計画被害想定調査報告書（平成 18 年 3 月）によるもの

ア 想定する地震

中央防災会議及び地震調査研究推進本部において検討されている本県にとって大きな影響を及ぼす可能性のある以下の地震のケース（以下、「想定地震」という）を想定する。

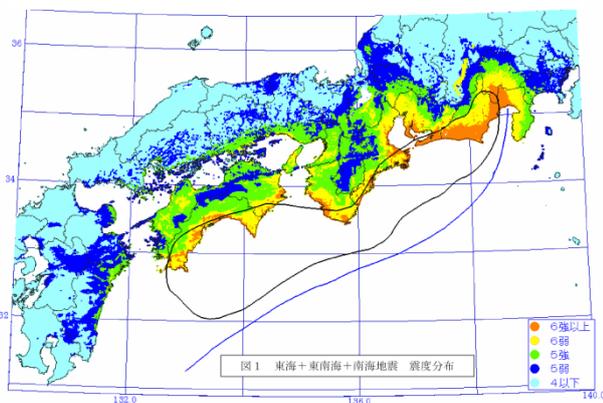
(ア) プレート境界型地震

- ① 東海地震・東南海地震・南海地震（M8.7）が同時に発生する場合
- ② 東海地震（M8.0）が単独で発生する場合
- ③ 東南海地震（M8.1）発生の後、南海地震（M8.4）が数時間～数十時間程度の時間差で発生する場合

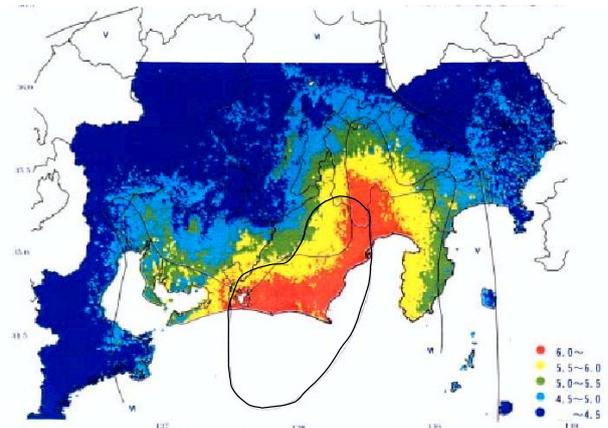
（東南海地震発生後、被害の復旧がほとんど進んでいない段階で南海地震が発生するものと想定する。三重県のほとんどの地域では、地震動の大きさが、東南海地震>>南海地震となるため、被害のほとんどは東南海地震によって決まると考えられるが、三重県南部の一部においては、東南海地震≤南海地震となるため、東南海地震により被害を受けた建物が、南海地震により倒壊するといったようなより大きい被害形態が生じる可能性がある。

[プレート境界型地震想定断層]（中央防災会議 2004 より）

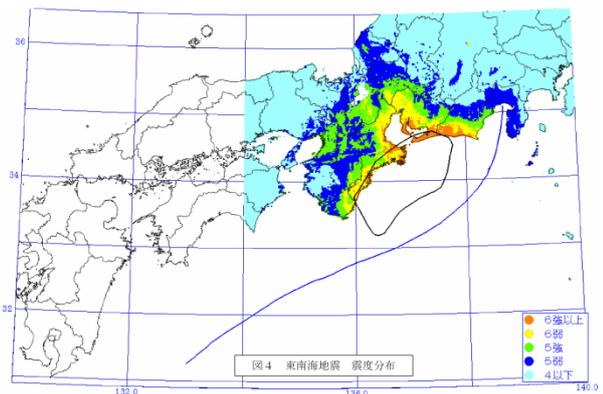
① 東海+東南海+南海地震（M8.7）



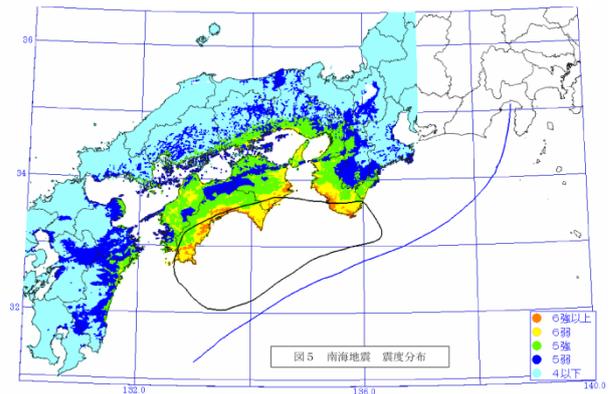
② 東海地震（M8.0）



③ 東南海地震（M8.1）

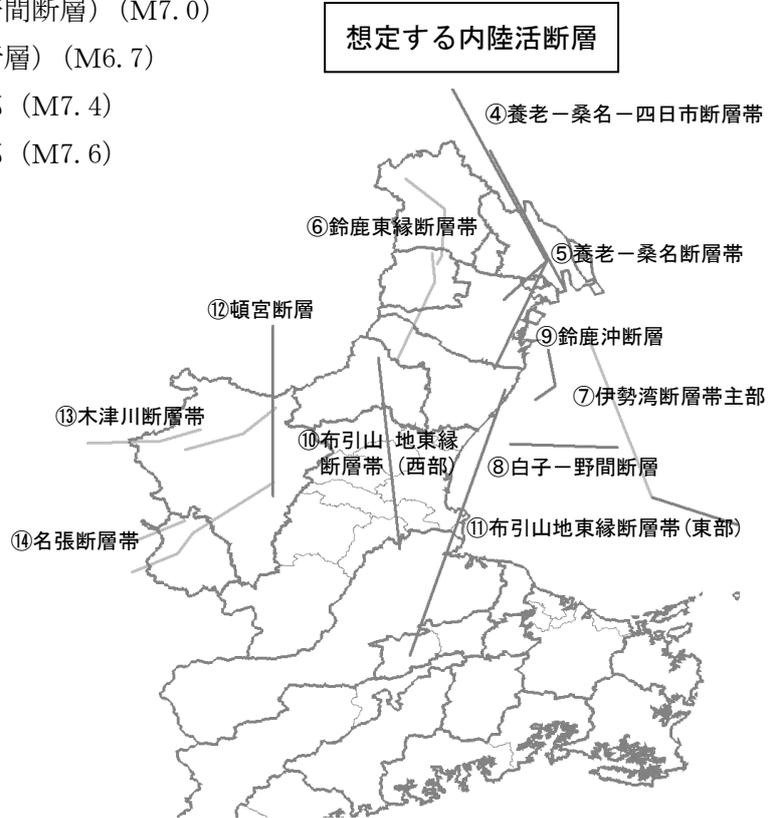


③' 南海地震（M8.4）



(イ) 内陸活断層による地震

- ④ 養老—桑名—四日市断層帯 (M7.8)
- ⑤ 養老—桑名断層帯 (M7.4)
- ⑥ 鈴鹿東縁断層帯 (M7.5)
- ⑦ 伊勢湾断層帯 (伊勢湾断層帯主部) (M7.5)
- ⑧ 伊勢湾断層帯 (白子—野間断層) (M7.0)
- ⑨ 伊勢湾断層帯 (鈴鹿沖断層) (M6.7)
- ⑩ 布引山地東縁断層帯西部 (M7.4)
- ⑪ 布引山地東縁断層帯東部 (M7.6)
- ⑫ 頓宮断層 (M7.3)
- ⑬ 木津川断層帯 (M7.3)
- ⑭ 名張断層帯 (M7.3)



〔各想定震源モデルにおける津市の平均震度〕

	南海・東南海・東海地震	東海地震	東南海地震	南海地震	養老—桑名—四日市断層帯	養老—桑名断層帯	鈴鹿東縁断層帯	伊勢湾断層帯			布引山地東縁断層帯西部	布引山地東縁断層帯東部	頓宮断層	木津川断層帯	名張断層帯
								伊勢湾断層帯主部	白子—野間断層帯	鈴鹿沖断層					
	M8.7	M8.0	M8.1	M8.4	M7.8	M7.4	M7.5	M7.5	M7.0	M6.7	M7.4	M7.6	M7.3	M7.3	M7.3
津市全体	5.4	4.1	5.4	4.2	4.6	4.5	4.9	4.7	4.4	4.3	5.4	5.5	4.9	4.7	4.9
旧津市	5.8	4.7	5.8	4.3	5.2	5.0	5.2	5.2	5.1	5.1	5.8	6.0	5.1	4.7	4.8
旧久居市	5.5	4.3	5.5	4.2	4.9	4.8	5.1	4.9	4.7	4.6	5.8	5.8	5.2	4.8	5.0
旧河芸町	5.8	4.7	5.8	4.3	5.3	5.1	5.2	5.3	5.3	5.5	5.6	5.9	5.0	4.7	4.5
旧芸濃町	5.3	4.2	5.3	4.1	5.0	4.9	5.5	4.9	4.6	4.6	5.8	5.4	5.4	5.0	5.0
旧美里村	5.3	4.1	5.3	4.2	4.8	4.7	5.2	4.7	4.6	4.5	5.8	5.5	5.4	4.9	5.0
旧安濃町	5.4	4.3	5.4	4.2	5.0	5.0	5.4	5.0	4.9	4.9	6.0	5.8	5.3	4.9	4.9
旧香良洲町	5.8	4.8	5.8	4.3	5.1	4.9	4.7	5.1	4.8	4.8	5.3	5.9	5.0	4.3	4.5
旧一志町	5.4	4.1	5.4	4.1	4.6	4.5	4.8	4.8	4.5	4.3	5.5	5.9	4.9	4.6	4.9
旧白山町	5.1	3.7	5.1	4.1	4.4	4.4	4.8	4.5	4.3	4.1	5.3	5.5	5.1	4.8	5.2
旧美杉村	5.2	3.8	5.2	4.1	4.0	4.0	4.3	4.3	3.8	3.7	4.6	5.1	4.4	4.4	4.8

■ : 震度6強 ■ : 震度6弱 ■ : 震度5強

イ 被害想定

(ア) 想定時間帯

想定時間帯は、県民の生活行動を顕著に反映し、被害が甚大となると想定される時間帯を考慮する。

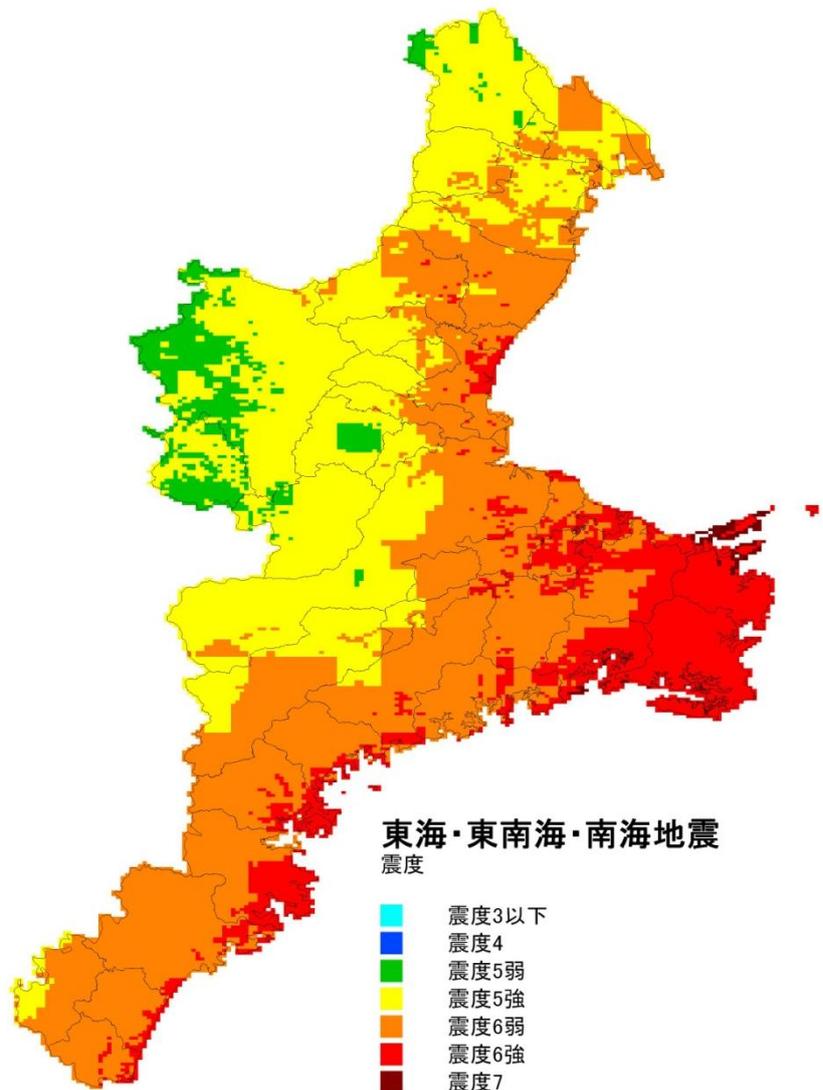
- ① 冬早朝5時ごろの時間帯（阪神・淡路大震災と同様の時間帯で、多くの人が自宅に居て就寝中若しくは起床の時間帯）。
- ② 夏の午後、若しくは春秋の午後、外出者が多く、市街地や浜辺に買い物客や観光客が集っている時間帯。
- ③ 冬の夕方、家事や暖房で最も火気の頻度が高くなり、火災発生率が高くなる季節・時間帯。

〔津市の人口・建物数〕

夜間 人口 (人)	昼間 人口 (人)	木造建物数 (棟)			RC造建物数 (棟)			S造建物数 (棟)			その他 建物数 (棟)	建物数 合計 (棟)
		S 34 以前	S 35～ S 56	S 56 以降	S 46 以前	S 47～ S 56	S 57 以降	S 46 以前	S 47～ S 56	S 57 以降		
286,521	292,776	42,573	55,133	44,148	1,042	1,094	6,310	4,576	13,642	25,249	7,525	201,292

(イ) 被害想定結果

<東海・東南海・南海地震>



◎三重県の被害想定（概要）

【震度】

全县にわたって震度5弱以上の地震動に見舞われ、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、尾鷲市、熊野市等主要な都市部では震度6弱以上、志摩市など志摩半島の市町では震度6強から震度7の強い揺れが生じると想定されている。

【津波高さ】

熊野灘沿岸では津波高さ4～5mと非常に高く、津波到達時間（被害が発生し始めると考えられる50cmの水位に達する時間）は6分～10分と短い。

【揺れによる建物被害】

全壊棟数 約39,000棟（県下の建築物の約3%）
 半壊棟数 約84,000棟（" 約6%）
 計 約123,000棟（" 約9%）

被害はほぼ県全域にわたっているが、特に熊野灘沿岸では全壊率10%以上と想定され、津市など太平洋沿岸の主要都市部においても約5%程度の全壊率と想定される。

【火災による建物被害】

焼失棟数 約27,000棟（冬18時、風速3m）

被害は建物倒壊率の高い熊野灘沿岸部や建物密度が高い津市などの市街地に集中している。

【液状化による建物被害】

全壊棟数 約10,800棟（県下の建築物の約0.8%）

液状化危険度の高い三重県北部太平洋沿岸の平野部で被害が大きい。

【斜面崩壊による建物被害】

全壊棟数 約3,000棟（県下の建築物の約0.2%）

半壊棟数 約8,000棟（" 約0.5%）

被害は県全域にわたっており、揺れによる被害が少ない山間部においても被害の発生が想定される。

【揺れによる建物被害、火災による建物被害および斜面崩壊による建物被害に伴う人的被害】

死者数 約600人（春夏秋の昼間）～ 約1,700人（冬の早朝）

負傷者数 約4,400人（春夏秋の昼間）～ 約12,000人（冬の早朝）

罹災者数 約1,400,000人

避難者数 約43,000人（冬の早朝）～ 約62,000人（冬の夕方）

【津波による被害】

全壊棟数 約10,000棟（海岸保全施設あり）～ 約30,000棟（海岸保全施設なし）

半壊棟数 約6,000棟（海岸保全施設あり）～ 約30,000棟（海岸保全施設なし）

死者数（海岸保全施設あり、早朝） 約1,000人（防災意識高）～ 約3,100人（防災意識低）

死者数（海岸保全施設なし、早朝） 約2,000人（防災意識高）～ 約6,100人（防災意識低）

被害の地域は志摩市、尾鷲市、熊野市、南伊勢町、大紀町、紀北町等の志摩半島から熊野灘沿岸部の海岸付近に集中している。

◎津市の被害想定

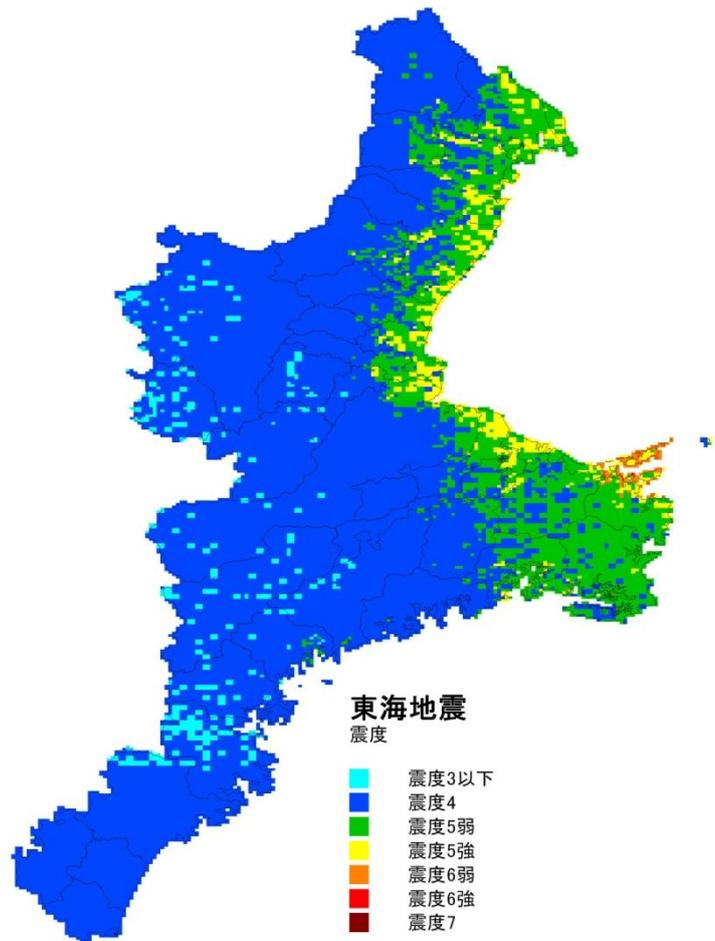
【建物被害】

建物棟数(棟)	震度	液状化危険度	揺れ		火災(冬の18時)		液状化	斜面崩壊		合計	
			全壊棟数(棟)	半壊棟数(棟)	出火件数(件)	焼失棟数(棟)	全壊棟数(棟)	全壊棟数(棟)	半壊棟数(棟)	全壊・焼失棟数(棟)	半壊棟数(棟)
201,292	(5強)	低い	7,568	15,793	65	4,750	1,913	300	696	14,531	16,489

【人的被害】

冬の5時				冬の18時				春夏秋の昼				帰宅困難者数(外出先別、人)
死者数(人)	負傷者数(人)	罹災者数(人)	避難者数(人)	死者数(人)	負傷者数(人)	罹災者数(人)	避難者数(人)	死者数(人)	負傷者数(人)	罹災者数(人)	避難者数(人)	
331	2,522	224,897	9,913	190	1,359	225,597	13,574	138	998	225,234	11,707	36,990

<東海地震>



◎三重県の被害想定（概要）

【震度】

南勢地域の志摩半島で震度 6 弱の強い揺れ

【津波高さ】

津波が発生し、被害が生じる懸念がある

【建物被害】

揺れによる全壊棟数が四日市市で約 560 棟、鳥羽市で約 380 棟など北勢地域から南勢地域にかけて建物被害が大きい。県全域で全壊・焼失棟数約 7,500 棟

【人的被害】

冬の 5 時の条件で死者数が鳥羽市で 30 人など北勢地域から南勢地域にかけて人的被害が大きい。県全域で死者数約 100 人、負傷者数約 1,000 人

◎津市の被害想定

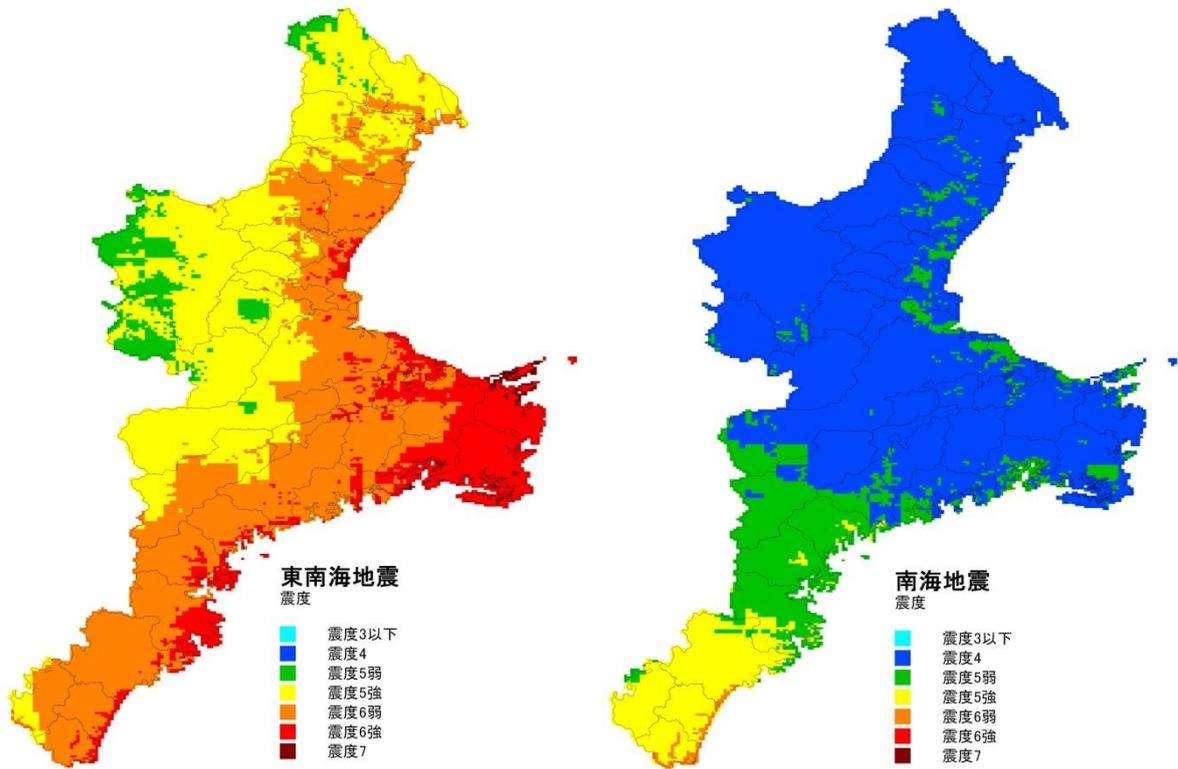
【建物被害】

建物棟数 (棟)	震度	液状化危険度	揺れ		火災 (冬の 18 時)		液状化	斜面崩壊		合計	
			全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)	全壊棟数 (棟)	全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	全壊・焼失棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)
201,292	(4)	低い	125	557	9	610	716	46	109	1,497	666

【人的被害】

冬の 5 時				冬の 18 時				春夏秋の昼				帰宅困難者数 (外出先別、人)
死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	
6	77	130,309	815	7	54	130,750	1,397	3	34	130,482	1,044	7,756

＜東南海地震の数時間～数十時間後に南海地震＞



◎三重県の被害想定（概要）

【震度】

東南海地震により東海・東南海・南海地震とほぼ同程度の揺れに見舞われ、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、尾鷲市、熊野市等主要な都市部では震度 6 弱以上、志摩市など志摩半島の市町では震度 6 強から震度 7 の強い揺れとなり、南海地震により東紀州地域の沿岸部で震度 6 弱の強い揺れとなる

【津波高さ】

津波が発生し、東海・東南海・南海地震と同程度の大被害が生じる

【建物被害】

揺れによる全壊棟数が津市で約 10,000 棟など県全域で東海・東南海・南海地震と同程度あるいはそれ以上の建物被害が生じる。県全域で全壊・焼失棟数約 93,000 棟

【人的被害】

冬の 5 時の条件で死者数が津市で約 470 人など東海・東南海・南海地震と同程度あるいはそれ以上の人的被害が生じる。県全域で死者数約 2,300 人、負傷者数約 12,000 人

◎津市の被害想定

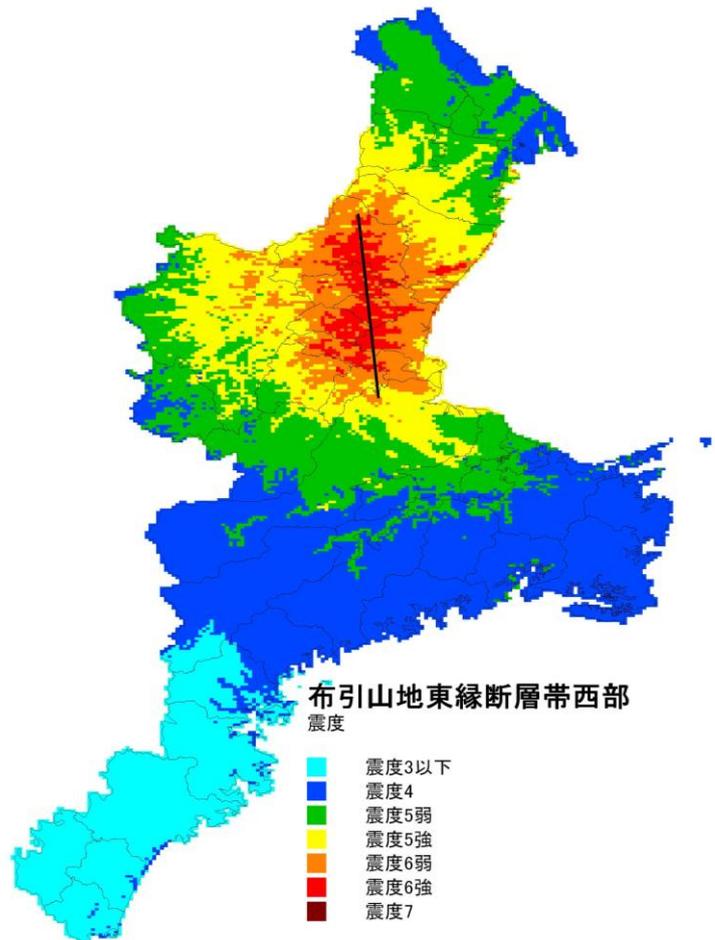
【建物被害】

建物棟数 (棟)	震度	液状化危険度	揺れ		火災 (冬の 18 時)		液状化	斜面崩壊		合計	
			全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)	全壊棟数 (棟)	全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	全壊・焼失棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)
201,292	(5 強)	低い	9,809	14,004	74	5,490	1,894	298	693	17,491	14,697

【人的被害】

冬の 5 時				冬の 18 時				春夏秋の昼				帰宅困難者数(外出先別、人)
死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	
468	2,449	227,598	12,046	265	1,341	228,422	16,418	195	976	228,020	14,315	36,990

<布引山地東縁断層帯西部>



◎三重県の被害想定（概要）

【震度】

北勢地域～中勢地域で震度 6 強以上の強い揺れ

【津波高さ】

津波の心配はない

【建物被害】

揺れによる全壊棟数が津市で約 850 棟など北勢地域から中勢地域にかけて建物被害が大きい。県全域で全壊・焼失棟数約 8,300 棟

【人的被害】

冬の 5 時の条件で死者数が津市で 54 人など北勢地域から中勢地域にかけて人的被害が大きい。県全域で死者数約 110 人、負傷者数約 710 人

◎津市の被害想定

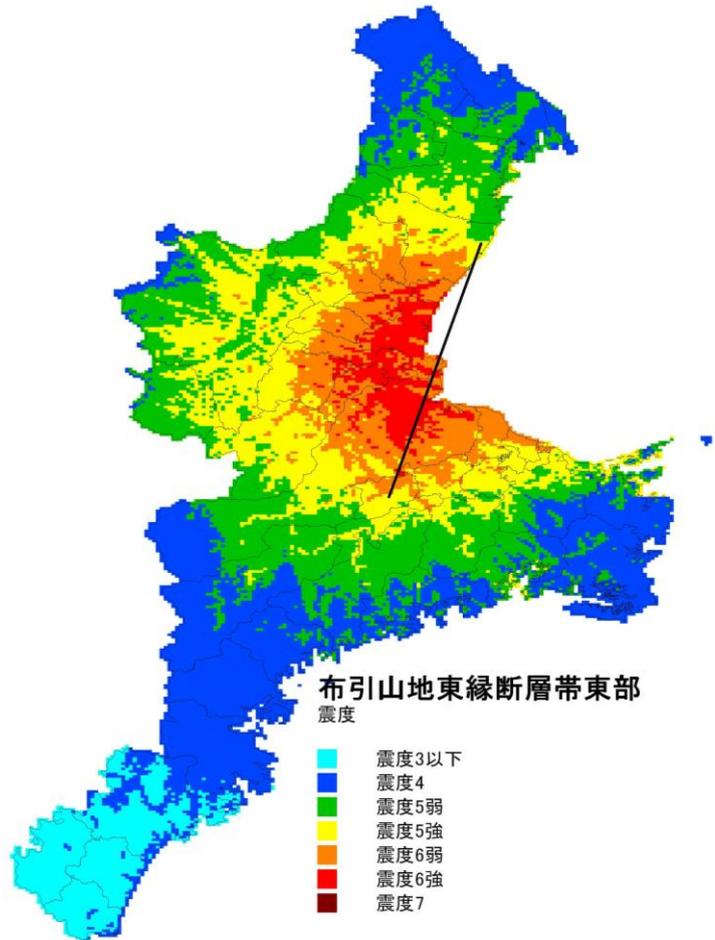
【建物被害】

建物棟数 (棟)	震度	液状化危険度	揺れ		火災 (冬の 18 時)		液状化	斜面崩壊		合計	
			全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)	全壊棟数 (棟)	全壊棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)	全壊・焼失棟数 (棟)	半壊棟数 (棟)
201, 292	(5 強)	低い	847	2, 958	24	660	1, 759	342	798	3, 608	3, 756

【人的被害】

冬の 5 時				冬の 18 時				春夏秋の昼				帰宅困難者数(外出先別、人)
死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	死者数 (人)	負傷者数 (人)	罹災者数 (人)	避難者数 (人)	
54	436	248, 377	2, 470	31	233	248, 483	3, 072	23	180	248, 443	2, 842	39, 449

<布引山地東縁断層帯東部>



◎三重県の被害想定（概要）

【震度】

北勢地域～南勢地域の広い範囲で震度6強以上の強い揺れ

【津波高さ】

津波の心配はない

【建物被害】

揺れによる全壊棟数が津市で約3,000棟、松阪市で約2,300棟など北勢地域から南勢地域にかけて建物被害が大きい。県全域で全壊・焼失棟数約18,000棟

【人的被害】

冬の5時の条件で死者数が津市で約120人など北勢地域から南勢地域にかけて人的被害が大きい。県全域で死者数約270人、負傷者数約2,100人

◎津市の被害想定

【建物被害】

建物棟数(棟)	震度	液状化危険度	揺れ		火災(冬の18時)		液状化	斜面崩壊		合計	
			全壊棟数(棟)	半壊棟数(棟)	出火件数(件)	焼失棟数(棟)	全壊棟数(棟)	全壊棟数(棟)	半壊棟数(棟)	全壊・焼失棟数(棟)	半壊棟数(棟)
201,292	(6弱)	低い	2,972	7,760	38	2,230	2,048	380	886	7,630	8,646

【人的被害】

冬の5時				冬の18時				春夏秋の昼				帰宅困難者数(外出先別、人)
死者数(人)	負傷者数(人)	罹災者数(人)	避難者数(人)	死者数(人)	負傷者数(人)	罹災者数(人)	避難者数(人)	死者数(人)	負傷者数(人)	罹災者数(人)	避難者数(人)	
124	1,119	247,718	5,001	75	610	247,996	6,912	55	467	247,920	6,380	39,882

(2) 南海トラフ巨大地震の被害想定等によるもの

南海トラフの巨大地震については、東北地方太平洋沖地震を教訓に、最新の科学的知見に基づく最大クラスの地震として、南海トラフ巨大地震モデル検討会において震度分布、津波高、浸水域等が推計され、それらを基に、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループにおいて建物被害、人的被害、施設等の被害及び経済的な被害等が推計され、今後の防災対策の基礎資料として被害の全体像が示されたものである。また、被害想定については、平成24年8月に被害想定第一次報告として、建物被害・人的被害等の推計結果が取りまとめられ、平成25年3月には被害想定第二次報告として、施設等の被害及び経済的な被害を取りまとめられた。

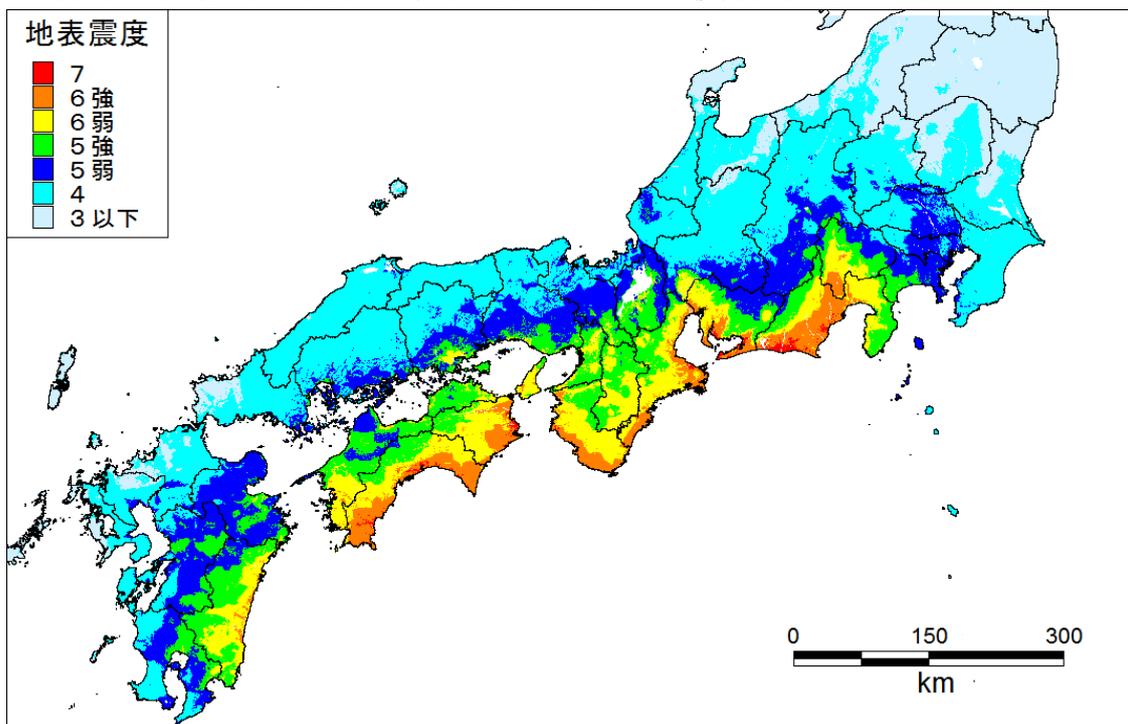
ア 想定する地震動

<南海トラフ巨大地震モデル最大となる震度>

	基本ケース	陸側ケース	東側ケース	西側ケース	経験的手法
津市	6強	7	6強	6強	6強

(ア) 基本ケース

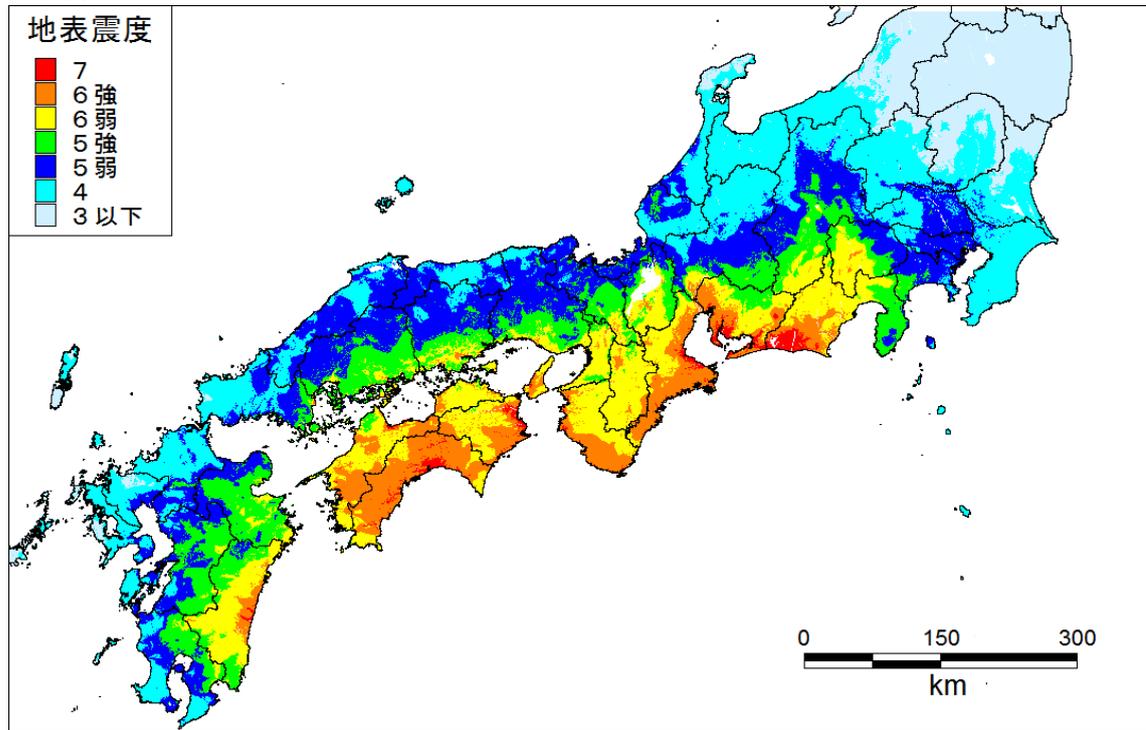
中央防災会議による東海地震、東南海・南海地震の検討結果を参考に設定したもの



[基本ケース地表震度 全域]

(イ) 陸側ケース

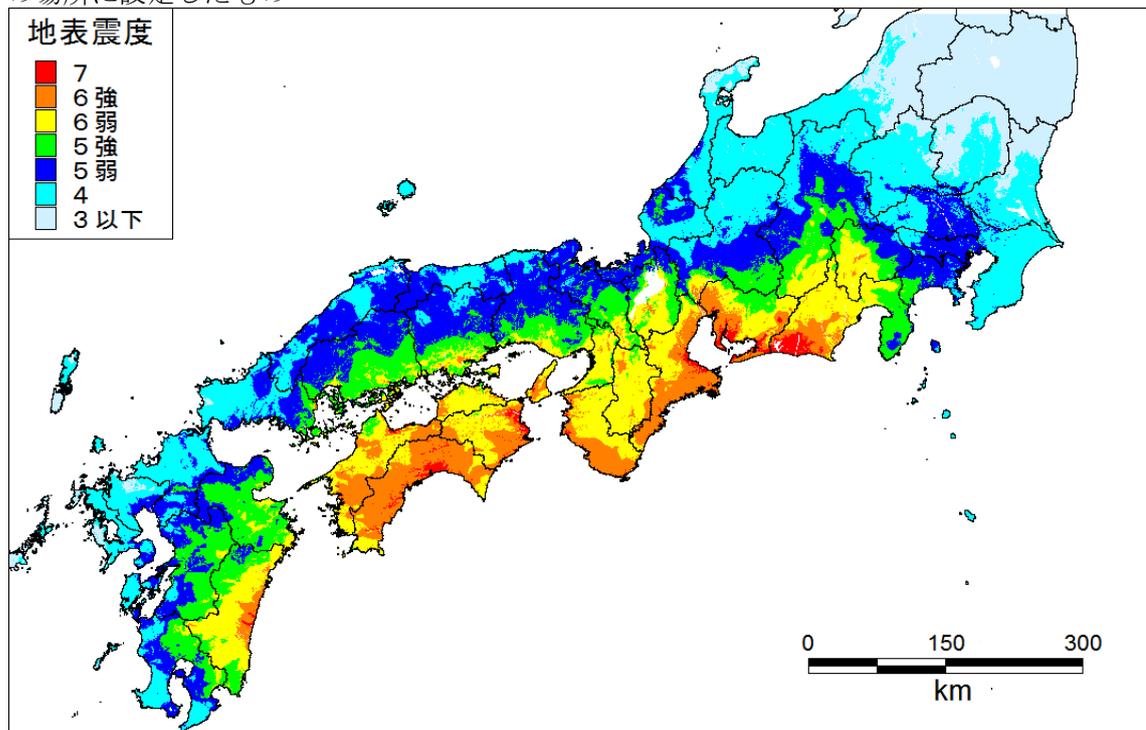
基本ケースの強振動生成域を、可能性のある範囲で最も陸域側（プレート境界面の深い側）の場所に設定したもの



[陸側ケース 地表震度 全域]

(ウ) 東側ケース

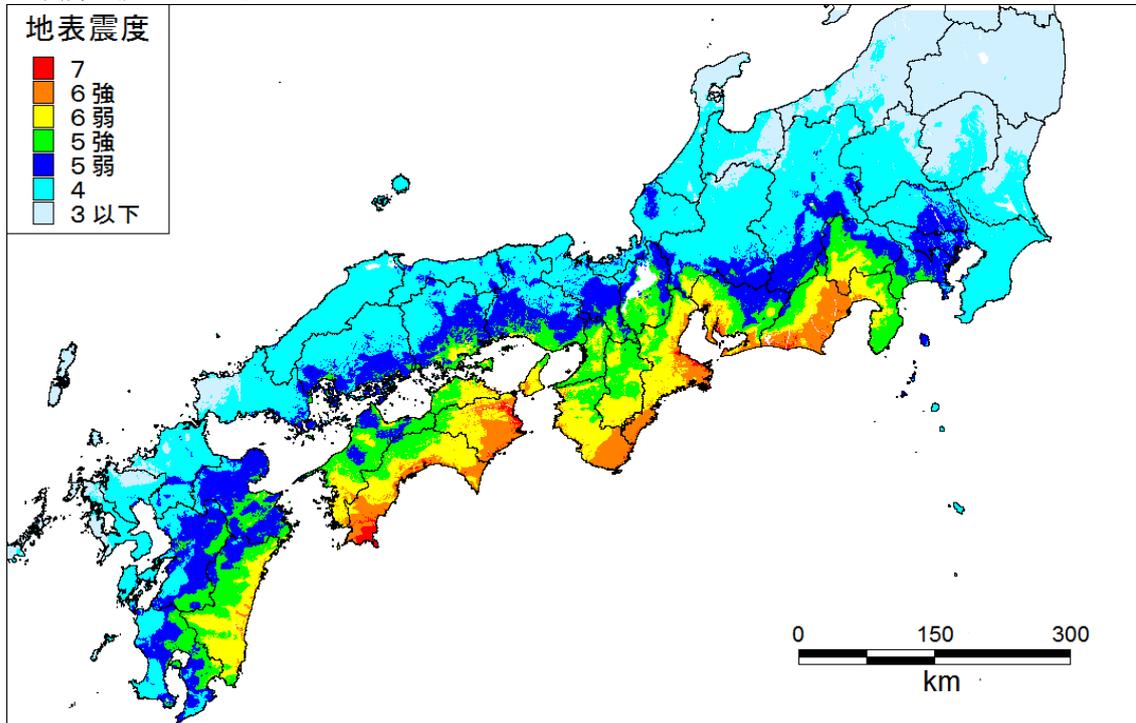
基本ケースの強振動生成域を、やや東側（トラフ軸から見て、トラフ軸に概ね平行に右側）の場所に設定したもの



[東側ケース 地表震度 全域]

(エ) 西側ケース

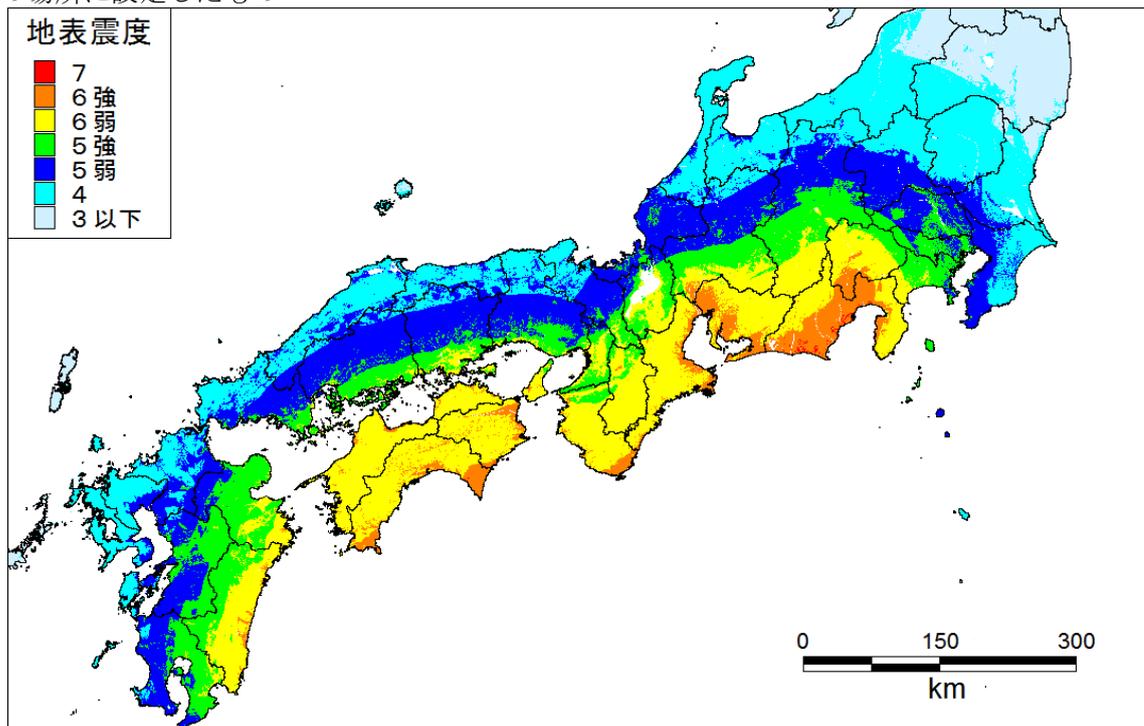
基本ケースの強振動生成域を、やや西側（トラフ軸から見て、トラフ軸に概ね平行に左側）の場所に設定したもの



[西側ケース 地表震度 全域]

(オ) 経験的手法による震度分布

基本ケースの強振動生成域を、やや西側（トラフ軸から見て、トラフ軸に概ね平行に左側）の場所に設定したもの



[経験的手法による震度分布]

イ 被害想定

＜三重県における被害想定＞（市町村別の被害想定は未公表）

(7) 人的被害等

	地震動 ケース	津波 ケース	季節・ 時間	風速	避難意識	死者数	負傷者数	全壊棟数	
(1) 東海地方が大きく被災するケース	基本ケース	①	冬深夜	平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 19,000	約 38,000	約 113,000	
					早期避難率低	約 35,000	約 39,000		
				8 m/s	早期避難率高+呼びかけ	約 19,000	約 38,000	約 115,000	
					早期避難率低	約 35,000	約 39,000		
				夏十二時	平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 7,700	約 29,000	約 115,000
						早期避難率低	約 25,000	約 30,000	
			8 m/s		早期避難率高+呼びかけ	約 7,700	約 29,000	約 117,000	
					早期避難率低	約 25,000	約 30,000		
			冬十八時		平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 9,800	約 28,000	約 130,000
						早期避難率低	約 27,000	約 29,000	
				8 m/s	早期避難率高+呼びかけ	約 9,800	約 28,000	約 132,000	
					早期避難率低	約 27,000	約 29,000		
	陸側ケース	①		冬深夜	平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 26,000	約 65,000	約 209,000
						早期避難率低	約 43,000	約 66,000	
			8 m/s		早期避難率高+呼びかけ	約 26,000	約 65,000	約 210,000	
					早期避難率低	約 43,000	約 66,000		
			夏十二時		平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 12,000	約 55,000	約 213,000
						早期避難率低	約 28,000	約 56,000	
				8 m/s	早期避難率高+呼びかけ	約 12,000	約 55,000	約 214,000	
					早期避難率低	約 28,000	約 56,000		
				冬十八時	平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 16,000	約 49,000	約 238,000
						早期避難率低	約 33,000	約 50,000	
			8 m/s		早期避難率高+呼びかけ	約 16,000	約 49,000	約 239,000	
					早期避難率低	約 33,000	約 50,000		
(2) 近畿地方が大きく被災するケース	基本ケース	③	冬深夜		平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 10,000	約 38,000	約 92,000
						早期避難率低	約 19,000	約 38,000	
				8 m/s	早期避難率高+呼びかけ	約 11,000	約 38,000	約 94,000	
					早期避難率低	約 19,000	約 39,000		
				夏十二時	平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 3,900	約 29,000	約 93,000
						早期避難率低	約 11,000	約 30,000	
			8 m/s		早期避難率高+呼びかけ	約 4,000	約 29,000	約 96,000	
					早期避難率低	約 11,000	約 30,000		
			冬十八時		平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 5,900	約 28,000	約 110,000
						早期避難率低	約 13,000	約 29,000	
				8 m/s	早期避難率高+呼びかけ	約 6,000	約 28,000	約 112,000	
					早期避難率低	約 13,000	約 29,000		
	陸側ケース	③		冬深夜	平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 17,000	約 65,000	約 191,000
						早期避難率低	約 25,000	約 66,000	
			8 m/s		早期避難率高+呼びかけ	約 17,000	約 65,000	約 193,000	
					早期避難率低	約 25,000	約 66,000		
			夏十二時		平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 7,000	約 55,000	約 195,000
						早期避難率低	約 14,000	約 56,000	
				8 m/s	早期避難率高+呼びかけ	約 7,100	約 55,000	約 197,000	
					早期避難率低	約 14,000	約 56,000		
				冬十八時	平均風速	早期避難率高+呼びかけ	約 12,000	約 50,000	約 223,000
						早期避難率低	約 19,000	約 50,000	
			8 m/s		早期避難率高+呼びかけ	約 12,000	約 50,000	約 224,000	
					早期避難率低	約 19,000	約 50,000		

(イ) 経済的な被害

① 被害額(基本ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s)

単位：兆円

民間部門		準公共部門			公共部門							合計
建物	資産	電気	通信	鉄道	上水道	下水道	港湾	道路	その他 公共 土木	漁港	災害 廃棄物 処理	
8.3	1.4	0.05	0.02	0.03	0.02	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.5	10.9

(注1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

(注2) 都市ガス、農地を除く

② 被害額(陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s)

単位：兆円

民間部門		準公共部門			公共部門							合計
建物	資産	電気	通信	鉄道	上水道	下水道	港湾	道路	その他 公共 土木	漁港	災害 廃棄物 処理	
13.0	2.2	0.1	0.02	0.04	0.03	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.7	16.9

(注1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

(注2) 都市ガス、農地を除く

(ウ) ライフライン被害

① 上水道 断水人口

条件等	給水人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)	断水人口 (人)	断水率 (%)
東海地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース①、冬深夜、平均風速	約 1,800,000	約 1,500,000	85	約 1,500,000	82	約 850,000	47	約 200,000	11
東海地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s	約 1,800,000	約 1,700,000	93	約 1,700,000	92	約 1,300,000	71	約 390,000	22
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース③、冬深夜、平均風速	約 1,800,000	約 1,500,000	85	約 1,500,000	82	約 850,000	47	約 200,000	11
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース③、冬夕方、風速 8m/s	約 1,800,000	約 1,700,000	93	約 1,700,000	92	約 1,300,000	71	約 390,000	22

② 下水道 支障人口

条件等	処理人口 (人)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		支障人口 (人)	機能支障率 (%)	支障人口 (人)	機能支障率 (%)	支障人口 (人)	機能支障率 (%)	支障人口 (人)	機能支障率 (%)
東海地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース①、冬深夜、平均風速	約 830,000	約 760,000	92	約 710,000	86	約 150,000	18	約 20,000	2
東海地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s	約 830,000	約 770,000	92	約 720,000	86	約 170,000	21	約 20,000	2
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース③、冬深夜、平均風速	約 830,000	約 750,000	90	約 680,000	82	約 31,000	4	約 1,400	—
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース③、冬夕方、風速 8m/s	約 830,000	約 750,000	90	約 690,000	83	約 59,000	7	約 1,400	—

(注1) — : わずか

③ 電力 停電軒数

条件等	電灯軒数 (軒)	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
		停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)	停電軒数 (軒)	停電率 (%)
東海地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース①、冬深夜、平均風速	約 1,200,000	約 1,100,000	89	約 970,000	81	約 49,000	4	約 46,000	4
東海地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s	約 1,200,000	約 1,100,000	89	約 970,000	81	約 110,000	9	約 94,000	8
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース③、冬深夜、平均風速	約 1,200,000	約 1,100,000	89	約 960,000	81	約 21,000	2	約 17,000	1
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース③、冬夕方、風速 8m/s	約 1,200,000	約 1,100,000	89	約 960,000	81	約 85,000	7	約 69,000	6

④ 通信(固定電話) 不通回線数

条件等	回線数 (回線)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)	不通 回線数 (回線)	不通 回線率 (%)
東海地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、津波ケース①、冬深夜、平均風速	約 440,000	約 380,000	87	約 350,000	79	約 28,000	6	約 24,000	5
東海地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s	約 440,000	約 380,000	88	約 350,000	81	約 69,000	16	約 36,000	8
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、津波ケース③、冬深夜、平均風速	約 440,000	約 390,000	88	約 350,000	80	約 15,000	3	約 9,200	2
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、津波ケース③、冬夕方、風速 8m/s	約 440,000	約 390,000	89	約 360,000	82	約 60,000	14	約 22,000	5

⑤ 通信(携帯電話) 停波基地局率・携帯電話不通ランク

条件等	被災直後		被災1日後		被災4日後		被災1週間後	
	停波基地 局率(%)	不通 ランク	停波基地 局率(%)	不通 ランク	停波基地 局率(%)	不通 ランク	停波基地 局率(%)	不通 ランク
東海地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、津波ケース①、冬深夜、平均風速	6	—	79	A	6	—	6	—
東海地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s	13	—	81	A	13	—	12	—
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、津波ケース③、冬深夜、平均風速	3	—	80	A	3	—	3	—
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、津波ケース③、冬夕方、風速 8m/s	11	—	82	A	10	—	9	—

(注1) 携帯電話不通ランク A：非常につながりにくい、B：つながりにくい、C：ややつながりにくい

(注2) —：わずか

(注3) 停波基地局率は、基地局全体に占める基地局の割合

⑥ ガス(都市ガス) 供給停止戸数

条件等	復旧対象需要家数 (戸)	被災直後		被災1日後		被災1週間後		被災1ヶ月後	
		供給停止戸数 (戸)	供給停止率 (%)	供給停止戸数 (戸)	供給停止率 (%)	供給停止戸数 (戸)	供給停止率 (%)	供給停止戸数 (戸)	供給停止率 (%)
東海地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、津波ケース①、冬深夜、平均風速	約 100,000	約 87,000	86	約 83,000	82	約 59,000	59	—	—
東海地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s	約 81,000	約 81,000	100	約 79,000	98	約 69,000	85	約 29,000	36
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、津波ケース③、冬深夜、平均風速	約 110,000	約 91,000	87	約 87,000	83	約 63,000	60	—	—
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、津波ケース③、冬夕方、風速 8m/s	約 83,000	約 83,000	100	約 81,000	98	約 71,000	85	約 30,000	36

(注 1) 供給停止率は全半壊した需要家を除いた需要家数に占める供給停止戸数の割合

(注 2) —：わずか

(エ) 交通施設被害

① 道路 道路施設被害箇所数

単位：箇所

条件等	地振動：基本ケース			地振動：陸側ケース		
	津波浸水域	津波浸水域外	計	津波浸水域	津波浸水域外	計
東海地方が大きく被災するケース(津波ケース①)	約 550	約 1,800	約 2,300	約 550	約 2,200	約 2,700
近畿地方が大きく被災するケース(津波ケース③)	約 140	約 1,900	約 2,000	約 140	約 2,400	約 2,500

(注 1) 高速道路・一般道路における被害箇所数の合計

(注 2) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

② 鉄道(在来線等) 鉄道施設被害箇所数

単位：箇所

条件等	地振動：基本ケース			地振動：陸側ケース		
	津波浸水域	津波浸水域外	計	津波浸水域	津波浸水域外	計
東海地方が大きく被災するケース(津波ケース①)	約 100	約 1,300	約 1,400	約 100	約 1,600	約 1,600
近畿地方が大きく被災するケース(津波ケース③)	約 40	約 1,400	約 1,400	約 40	約 1,600	約 1,700

(注 1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

③ 港湾(係留施設) 係留施設の被害箇所数

単位：箇所

条件等	岸壁		その他係留施設	
	岸壁数	被害箇所数	その他係留施設数	被害箇所数
地震動：基本ケース	110	約 50	448	約 270
地震動：陸側ケース	110	約 70	448	約 350

④ 港湾(防波堤) 被災防波堤延長

単位：m

条件等	防波堤延長	被災防波堤延長
東海地方が大きく被災するケース (津波ケース①)	16,765	約 10,300
近畿地方が大きく被災するケース (津波ケース③)	16,765	約 6,400

(オ) 生活への影響

① 避難者数

単位：人

条件等	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計	避難所	避難所外	合計
東海地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、 津波ケース①、冬深夜、 平均風速	約 220,000	約 130,000	約 350,000	約 230,000	約 170,000	約 400,000	約 100,000	約 240,000	約 350,000
東海地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、 津波ケース①、冬夕方、 風速 8m/s	約 350,000	約 210,000	約 560,000	約 390,000	約 300,000	約 690,000	約 200,000	約 470,000	約 680,000
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：基本ケース、 津波ケース③、冬深夜、 平均風速	約 150,000	約 91,000	約 240,000	約 200,000	約 170,000	約 370,000	約 97,000	約 230,000	約 320,000
近畿地方が大きく被災するケース 地震動：陸側ケース、 津波ケース③、冬夕方、 風速 8m/s	約 290,000	約 180,000	約 470,000	約 350,000	約 320,000	約 670,000	約 200,000	約 460,000	約 660,000

(注1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

② 帰宅困難者数

単位：人

自宅のあるゾーン外への外出者数 (自宅からの距離別)							帰宅 困難者数
10km 未満	10～20km	20～30km	30～40km	40～50km	50km 以上	合計	
約 160,000	約 79,000	約 19,000	約 7,000	約 5,000	約 5,000	約 280,000	約 67,000 ～ 約 68,000

(カ) 災害廃棄物等

① 災害廃棄物等

条件等	災害廃棄物等発生量 (万トン) [重量換算]			災害廃棄物等発生量 (万m ³) [体積換算]		
	災害廃棄物	津波堆積物	合計	災害廃棄物	津波堆積物	合計
東海地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース①、冬深夜、平均風速	約 1,000	約 400 ～ 約 900	約 1,500 ～ 約 2,000	約 1,000	約 400 ～ 約 600	約 1,400 ～ 約 1,600
東海地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース①、冬夕方、風速 8m/s	約 2,200	約 400 ～ 約 900	約 2,700 ～ 約 3,200	約 2,100	約 400 ～ 約 600	約 2,500 ～ 約 2,700
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:基本ケース、津波ケース③、冬深夜、平均風速	約 800	約 200 ～ 約 400	約 1,000 ～ 約 1,200	約 700	約 200 ～ 約 300	約 900 ～ 約 1,000
近畿地方が大きく被災するケース 地震動:陸側ケース、津波ケース③、冬夕方、風速 8m/s	約 2,100	約 200 ～ 約 400	約 2,200 ～ 約 2,400	約 1,900	約 200 ～ 約 300	約 2,100 ～ 約 2,200

(注1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

(キ) その他の被害

① エレベータ内閉じ込め者数

単位:人

条件等	事務所			住宅			合計		
	8時	12時	18時	8時	12時	18時	8時	12時	18時
地震動:基本ケース	約 200	約 900	約 300	約 40	約 10	約 40	約 300	約 900	約 300
地震動:陸側ケース	約 200	約 900	約 300	約 40	約 10	約 40	約 300	約 900	約 300

(注1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

② 閉じ込めにつながり得るエレベータ停止建物棟数 単位:棟

地震動:基本ケース			地震動:陸側ケース		
事務所	住宅	合計	事務所	住宅	合計
約 200	約 200	約 400	約 200	約 200	約 500

(注1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

③ 閉じ込めにつながり得るエレベータ停止台数 単位:台

地震動:基本ケース			地震動:陸側ケース		
事務所	住宅	合計	事務所	住宅	合計
約 800	約 200	約 1,000	約 800	約 200	約 1,100

(注1) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

④ 孤立集落

条件等		孤立可能性のある農業集落数	孤立可能性のある漁業集落数
地振動: 基本ケース	津波ケース①	99	83
	津波ケース③	98	81
	津波ケース④	98	77
	津波ケース⑤	98	78
地震動: 陸側ケース	津波ケース①	173	85
	津波ケース③	173	85
	津波ケース④	173	85
	津波ケース⑤	173	85

2 災害の記録（危機管理部、消防本部）

1 風水害

<平成17年12月31日以前>

(津地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
台風第13号	昭和28年9月25日	死者5人、行方不明12人、重傷8人、軽傷34人、全壊223棟、流出112棟、半壊801棟、床上浸水11,902棟、床下浸水5,115棟、被災者数47,256人
台風第6・7号	昭和34年8月8日～14日	重傷1人、全壊5棟、半壊25棟、床上浸水3,001棟、床下浸水8,268棟、被災者数49,364人
台風第15号 (伊勢湾台風)	同年9月26日	重傷9人、全壊145棟、半壊632棟、流失1棟、床上浸水2,782棟、床下浸水5,203棟、被災者数39,152人
台風第23号	昭和46年8月8日	全壊1棟、半床上浸水964棟、床下浸水4,640棟、被災者数3,394人
台風第29号	同年9月26日	軽傷1人、全壊2棟、半壊2棟、床上浸水839棟、床下浸水6,195棟、被災者総数3,051人
集中豪雨	昭和49年7月25日	軽傷2人、床上浸水4,317棟、床下浸水8,213棟 被災者数40,808人
台風第17号と 前線による大雨	昭和51年9月8日～13日	床上浸水65棟、床下浸水2,892棟、 被災者数6,917人
台風第10号と 低気圧による大雨	昭和57年7月31日～ 8月3日	半壊1棟、床上浸水16棟、床下浸水546棟 被災者数1,816人
集中豪雨	昭和62年9月24日～25日	床上浸水104棟、床下浸水713棟、 被災者数2,202人
台風第1号及び 第13号	昭和63年8月15日～16日	床上浸水35棟、床下浸水840棟、 被災者数2,588人
低気圧による大雨	平成5年11月13日	床上浸水50棟、床下浸水910棟、被災者2,473人
集中豪雨	平成11年9月4日	床上浸水43棟、床下浸水460棟
集中豪雨 (東海豪雨)	平成12年9月11日～12日	床上浸水1棟、床下浸水61棟
台風21号	平成16年9月29日	住家 全壊1棟、半壊1棟、床上浸水449棟、床下浸水1,618棟 一部破損7棟 非住家 全壊1棟、浸水448棟、一部破損5棟
台風14号	平成17年9月5日～7日	住家 床下浸水10棟 非住家 浸水3棟 冠水による交通規制6箇所 倒木4箇所

(久居地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
集中豪雨	昭和 62 年 7 月 14 日	床下浸水 3 棟
集中豪雨	昭和 62 年 9 月 25 日	床下浸水 40 棟
台風 11・13 号	昭和 63 年 8 月 15 日～16 日	床上浸水 30 棟、床下浸水 610 棟
台風 19 号	平成 2 年 9 月 19 日～20 日	床下浸水 11 棟
台風 20 号	平成 2 年 9 月 30 日	床上浸水 1 棟、床下浸水 62 棟
台風 14 号	平成 5 年 9 月 9 日	全壊 5 棟、半壊 3 棟、一部破損 7 棟、床上浸水 20 棟、床下浸水 89 棟
集中豪雨	平成 7 年 5 月 11 日～13 日	床下浸水 3 棟
台風 21 号	平成 16 年 9 月 28 日～30 日	床上浸水 36 棟、床下浸水 159 棟
集中豪雨	平成 17 年 9 月 5 日	床下浸水 36 棟

(河芸地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
伊勢湾台風	昭和 34 年 9 月 26 日	負傷 1 人、全壊 11 棟、半壊 21 棟、 床上浸水 303 棟
集中豪雨	昭和 49 年 7 月 25 日	死者 2 人、負傷 1 人、床上浸水 120 棟、床下浸水 455 棟
台風 21 号	平成 16 年 9 月 28 日	床下浸水 12 棟

(芸濃地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
台風第 6・7 号	昭和 34 年 8 月 12 日～14 日	死傷者 26 人、 家屋の損壊 30 棟、床上・床下浸水 511 棟
台風 21 号	平成 16 年 9 月 29 日	床下浸水 7 棟

(美里地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
集中豪雨	昭和 59 年	土砂災害等
台風第 1 号及び 第 13 号	昭和 63 年 8 月 15 日～16 日	土砂災害等
集中豪雨	平成 2 年	土砂災害等
集中豪雨	平成 3 年	土砂災害等
集中豪雨	平成 5 年 9 月 9 日	断水、床上・床下浸水、土砂災害等 激甚災害指定
集中豪雨 (台風による)	平成 7 年 5 月 12 日	断水、土砂災害等
台風第 11 号	平成 13 年 8 月 21 日～22 日	断水、土砂災害等
台風第 10 号	平成 15 年 8 月 8 日～ 9 日	土砂災害
台風第 21 号	平成 16 年 9 月 28 日～30 日	床下浸水 4 棟、通行止 3 箇所、土砂災害等
台風第 23 号	平成 16 年 10 月 20 日～21 日	土砂災害等

(安濃地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
台風7号	昭和34年8月12日	死者1人、重傷者1人、軽傷者1人、全壊5棟、半壊13棟、 流失2棟、床上浸水188棟、床下浸水431棟
台風15号 (伊勢湾台風)	昭和34年9月26日	全壊17棟、半壊22棟、床上浸水2棟、 床下浸水62棟
台風24号	昭和40年9月17日	半壊1棟、床下浸水30棟
台風23号	昭和46年8月8日	半壊1棟、床上浸水9棟、床下浸水226棟
台風21号	平成16年9月29日	床上浸水6棟、床下浸水38棟

(香良洲地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
台風第13号	昭和28年9月25日	負傷者13人、全壊16棟、流出5棟、半壊218棟、 床上浸水727棟、床下浸水109棟、香良洲橋は流失、 香良洲大橋は通行不能のため香良洲町は孤立化した。
台風第15号 (伊勢湾台風)	昭和34年9月26日	負傷者3人、全壊16棟、半壊98棟、流失2棟、 床上浸水12棟、床下浸水85棟
台風第18号 (第二室戸台風)	昭和39年9月16日	床上浸水5棟、床下浸水20棟
台風第10号と 低気圧による大雨	昭和57年7月31日～ 8月3日	床上浸水11棟、避難勧告発令、自衛隊に災害派遣 要請、町内全戸成人男子に土嚢積みの呼びかけ
台風第21号と 低気圧による大雨	平成16年9月28日～29日	床下浸水5棟

(一志地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
台風15号	昭和31年9月	床上浸水80棟、橋流失4ヶ所、鉄道決壊1ヶ所ほか
伊勢湾台風	昭和34年9月	八太住宅、西屋敷、其村、向川原各地区避難、 午後八時 雲出川氾濫、堤防決壊、向川原・村出・ 片山・石橋全戸浸水、片山橋流失
台風29号	昭和46年4月	集中豪雨、被害甚大
台風17号	昭和51年9月	大雨による被害甚大
台風	昭和54年9月	台風来襲による水被害
台風10号及び 集中豪雨	昭和57年8月	雲出川、波瀬川氾濫 其倉橋流失、矢頭道通行止。時間最大雨量50mm(8 月1日夜)、日雨量308mm(8月1日～2日)を記録 被害総額12億円余
台風11号、13号	昭和63年8月	水被害
台風19号、20号	平成2年9月	集中豪雨。被害甚大(八太橋流失)
台風21号	平成16年9月29～30日	集中豪雨。床上浸水1棟、床下浸水79棟

(白山地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
台風第 15 号 (伊勢湾台風)	昭和 34 年 9 月 26 日	全壊 18 棟、半壊 27 棟、流失 4 棟、 床上浸水 36 棟、床下浸水 83 棟
台風第 23 号	昭和 46 年 8 月 8 日	床上浸水 6 棟、床下浸水 46 棟
台風第 29 号	昭和 46 年 9 月 26 日	死者 1 人、床上浸水 31 棟、床下浸水 478 棟
台風 10 号と 低気圧による大雨	昭和 57 年 7 月 31 日～8 月 3 日	死傷者 2 人、全半壊 13 棟、浸水家屋 68 棟
台風第 14 号	平成 5 年 11 月 13 日	床上浸水 7 棟、床下浸水 103 棟

(美杉地域)

名 称	年 月 日	被害の概要
台風第 15 号 (伊勢湾台風)	昭和 34 年 9 月 26 日	死者 12 人、重傷 3 人、軽傷 60 人、 全壊 38 棟、流出 17 棟、半壊 84 棟、床上浸水 100 棟、床下浸水 203 棟、被災者数 1,980 人
熱帯低気圧による大 雨	昭和 49 年 7 月 25 日	死者 4 人、重傷 7 人、軽傷 25 人、 全壊 7 棟、半壊 11 棟、床上浸水 42 棟、床下浸水 172 棟、一部破損 87 棟、被災者数 1,302 人
台風 10 号と低気圧に よる暴風雨と大雨	昭和 57 年 8 月 22 日	死者 1 人、重傷 1 人、軽傷 17 人、 全壊 13 棟、半壊 41 棟、床上浸水 92 棟、床下浸水 388 棟、一部破損 13 棟、被災者数 1,942 人
台風第 19 号	平成 2 年 9 月 19 日	半壊 1 棟、床上浸水 3 棟、床下浸水 53 棟、 被災者数 183 人
台風第 11 号	平成 13 年 8 月 24 日	一部破損 2 棟、床上浸水 1 棟、被災者数 3 人
台風第 10 号	平成 15 年 8 月 8 日	一部破損 5 棟、床上浸水 1 棟、床下浸水 1 棟、 被災者数 11 人
台風第 6 号	平成 16 年 6 月 20 日	一部破損 5 棟、被災者数 11 人
台風第 11 号	平成 16 年 8 月 5 日	床下浸水 5 棟、一部破損 3 棟、被災者数 12 人
台風第 16 号	平成 16 年 8 月 30 日	床下浸水 1 棟、被災者数 3 人
台風第 21 号	平成 16 年 9 月 28 日	床上浸水 1 棟、床下浸水 19 棟、被災者数 25 人

<平成 18 年 1 月 1 日以降>

(全地域)

名 称	年 月 日	地域	被害の概要
低気圧による大雨	平成 20 年 9 月 5 日	津、芸濃	床下浸水 7 棟、道路法面崩落、河川斜面崩落
台風第 18 号	平成 21 年 10 月 8 日	全域	住家半壊 1 棟、床上浸水 11 棟、道路法面崩壊、 河川斜面崩壊等
台風第 6 号	平成 23 年 7 月 18 日～20 日	美杉	床下浸水 1 棟
台風第 12 号	平成 23 年 9 月 1 日～5 日	津、久 居、美杉	重傷 2 人、軽傷 1 人、全壊 1 棟、半壊 1 棟、床 下浸水 7 棟
台風第 15 号	平成 23 年 9 月 20 日～21 日	津、美杉	床下浸水 2 棟
台風第 4 号	平成 24 年 6 月 19 日	津、河芸	軽傷 1 人、床下浸水 1 棟
台風第 17 号	平成 24 年 9 月 30 日	全域	重傷 1 人、軽傷 2 人、床上浸水 16 棟、床下浸水 101 棟
台風第 18 号	平成 25 年 9 月 15 日～16 日	全域	死者 2 人、軽傷 4 人、全壊 1 棟、床下浸水 7 棟

2 火災（消防本部発足以降の主なもの）

年 月 日	火災の場所・被害等
昭和 25 年 3 月 22 日	大字垂水・児童福祉会館火災
昭和 26 年 3 月 3 日	南堀端・三重県食品工場火災
昭和 26 年 8 月 14 日	五軒町・三宅製粉工場火災
昭和 28 年 1 月 7 日	高茶屋小森町・井村屋製菓工場火災
昭和 28 年 10 月 22 日	広明町・伊勢出版工場火災
昭和 32 年 3 月 11 日	白塚町・樋口製粉工場火災
昭和 37 年 12 月 2 日	新町・津高等学校火災
昭和 44 年 2 月 21 日	高茶屋小森上野町・南郊アパート共同住宅火災
昭和 47 年 11 月 29 日	大字内多・寺院火災全焼
昭和 48 年 12 月 19 日	大門・大門観光雑居ビル火災
昭和 48 年 12 月 27 日	芸濃町・林住宅火災
昭和 49 年 6 月	中別保地区・住宅火災 3 人死亡
昭和 49 年 9 月 11 日	一志町田尻・工場火災
昭和 50 年 2 月 2 日	高茶屋小森町・住宅火災で 4 人死亡
昭和 50 年 3 月 15 日	北長野・林野火災 杉 4200 本焼失
昭和 50 年 3 月 22 日	日南田・建物火災 小屋全焼
昭和 50 年 11 月	一色地区・ドライブイン火災
昭和 51 年 3 月 15 日	足坂・建物火災 全焼
昭和 51 年 4 月 8 日	高茶屋小森上野町・住宅火災で 2 人死亡
昭和 51 年 5 月 7 日	大字野田泉ヶ丘団地・住宅火災で 4 人死亡
昭和 51 年 5 月 26 日	久居新町・住宅火災で 1 人死亡
昭和 51 年 9 月 19 日	日南田・建物火災 半焼
昭和 51 年 9 月 22 日	白山町三ヶ野・建物火災 2 人死亡
昭和 52 年 5 月 5 日	白山町小杉・建物火災
昭和 52 年 10 月 11 日	榊原町・旅館全焼
昭和 53 年 4 月 17 日	北長野、建物火災 全焼
昭和 53 年 9 月 3 日	穴倉・建物火災 部分焼
昭和 54 年 2 月 13 日	家所・建物火災 小屋全焼 あぜ焼きによる延焼
昭和 54 年 11 月 11 日	上浜町・国立三重大学クラブハウス火災
昭和 54 年 11 月	豊津小学校講堂火災
昭和 55 年 1 月 23 日	白塚町・住宅火災で 4 棟全焼
昭和 55 年 2 月 22 日	白山町三ヶ野・建物火災 作業所全焼
昭和 55 年 6 月 5 日	足坂・建物火災 部分焼
昭和 55 年 9 月 27 日	北長野・建物火災 小屋全焼
昭和 55 年 11 月 23 日	白山町八対野・建物火災
昭和 56 年 12 月 23 日	北長野・建物火災 部分焼
昭和 57 年 1 月 2 日	榊原町・旅館全焼
昭和 57 年 1 月 7 日	北長野・建物火災 全焼
昭和 57 年 2 月 22 日	白山町山田野・建物火災
昭和 57 年 4 月 5 日	三郷・山林火災 放火による 山林 300 アール焼失
昭和 57 年 6 月 15 日	白山町川口・工場火災
昭和 57 年 12 月 29 日	家所・建物火災 プロパンガス引火による 部分焼
昭和 58 年 3 月 25 日	新家町・住宅火災で 1 人死亡
昭和 58 年 5 月	浜田地区・住宅火災 1 人死亡

年 月 日	火災の場所・被害等
昭和 58 年 10 月 17 日	白山町二本木・建物火災
昭和 58 年 11 月 4 日	西鷹跡町・住宅火災で 1 人死亡
昭和 59 年 2 月 15 日	平木・車両火災 ヒーター過熱による
昭和 59 年 3 月 12 日	北長野・車両火災 エンジン過熱による
昭和 59 年 8 月 27 日	森町・工場（産業廃棄）全焼
昭和 59 年 9 月 7 日	高座原・建物火災 小屋全焼
昭和 59 年 11 月 21 日	白山町二本木・建物火災
昭和 61 年 1 月 30 日	家所・建物火災 全焼 1 人死亡
昭和 61 年 10 月 23 日	家所・建物火災 小屋全焼 ボイラーの過熱による
昭和 61 年 11 月 4 日	須ヶ瀬町・住宅火災 1 人死亡
昭和 61 年 12 月 27 日	白山町川口・建物火災
昭和 61 年 12 月 29 日	大字内多・住宅火災全焼
昭和 62 年 1 月 2 日	香良洲町・住宅火災
昭和 62 年 1 月 5 日	北長野・建物火災 全焼 ストープ給油中引火による
昭和 62 年 1 月 22 日	南長野・建物火災 全焼 ローソクによる
昭和 62 年 7 月 24 日	三郷・車両火災
昭和 62 年 9 月 5 日	北長野・建物火災 村営住宅 2 階 1 室全焼 蚊取線香による
昭和 63 年 1 月 9 日	万町・住宅火災で 1 人死亡
平成元年 6 月 26 日	五百野・建物火災 溶接の火花による
平成元年 10 月 14 日	川方町・住宅火災で 1 人死亡
平成 2 年 3 月 21 日	家所・建物火災 部分焼 電気器具のショートによる
平成 2 年 4 月 26 日	新家町・住宅火災で 1 人死亡
平成 3 年 4 月 28 日	五百野・納屋 1 棟全焼 2 棟部分焼
平成 3 年 1 月 17 日	中央・住宅火災で 3 人死亡
平成 3 年 1 月 24 日	雲出鋼管町・日本鋼管津製作所で L P G タンカー火災
平成 3 年 3 月 5 日	大門・テナントビル火災
平成 3 年 8 月	津市消防管内で 18 件にのぼる連続放火火災が発生
平成 4 年 1 月 25 日	三郷・住宅 1 棟全焼 1 人死亡
平成 5 年 4 月 6 日	榑原町・寮全焼で 1 人死亡
平成 5 年 11 月 7 日	香良洲町・住宅火災で 1 人死亡
平成 6 年 1 月 31 日	桂畑・建物火災 小屋部分焼
平成 6 年 10 月 19 日	大門・店舗併用住宅火災で 3 人死亡
平成 7 年 3 月 7 日	大門・飲食店舗火災で 5 棟全焼
平成 7 年 7 月 28 日	一志町高野・建物火災
平成 7 年 8 月 11 日	芸濃町林・住宅火災
平成 8 年 3 月 18 日	芸濃町岡本・作業場火災
平成 8 年 4 月 30 日	太郎生・建物火災（納屋）全焼
平成 8 年 6 月 7 日	八知・建物火災（倉庫）全焼
平成 8 年 9 月 1 日	石名原・建物火災（住宅）全焼
平成 9 年 4 月 14 日	榑原町・住宅火災で 1 人死亡
平成 9 年 6 月 27 日	本町・店舗併用住宅火災で 1 人死亡
平成 10 年 2 月 2 日	白山町二本木・建物火災
平成 10 年 4 月 20 日	太郎生・建物火災（住宅）全焼
平成 10 年 5 月 3 日	安東町・工場火災
平成 10 年 5 月	一色地区・住宅火災
平成 10 年 9 月 8 日	太郎生・その他火災（焚火） 1 人死亡
平成 10 年 10 月 28 日	一志町其倉・建物火災 爆発

年 月 日	火災の場所・被害等
平成 11 年 3 月 30 日	丸之内・店舗併用住宅火災
平成 11 年 6 月 13 日	太郎生・建物火災（住宅）全焼
平成 11 年 11 月 23 日	奥津・建物火災（倉庫）全焼
平成 11 年 12 月 21 日	稲葉町・寺院兼住居で 1 人死亡
平成 12 年 1 月 6 日	大里窪田町・住宅等 6 棟全焼
平成 12 年 3 月 28 日	石名原・建物火災（小屋）全焼
平成 12 年 8 月 3 日	上多気・建物火災（小屋）全焼
平成 12 年 8 月 11 日	大字内多・住宅火災全焼
平成 12 年 8 月 11 日	大字内多・工場火災
平成 12 年 9 月 28 日	島崎町・住宅火災で 2 人死亡
平成 13 年 3 月 2 日	八知・建物火災（住宅）全焼 1 人死亡
平成 13 年 4 月 17 日	森町・工場（産業廃棄）全焼
平成 13 年 5 月 12 日	高茶屋小森町・住宅火災で 1 人死亡
平成 13 年 11 月 28 日	大字妙法寺・産業廃棄物処理工場火災 2 人負傷
平成 13 年 12 月 19 日	一志町片野・建物火災 住宅兼工場
平成 14 年 2 月 6 日	大字安濃・工場火災
平成 14 年 3 月 7 日	大字草生・経ヶ峰休養施設全焼
平成 14 年 3 月 13 日	経ヶ峰・放火による林野火災
平成 14 年 3 月 13 日	白山町佐田・建物火災 旅館
平成 14 年 4 月 19 日	三重大学工学部実験所・火災 9 人負傷
平成 14 年 7 月 18 日	大字連部・工場火災
平成 14 年 10 月 24 日	東鷹跡町・住宅火災で 1 人死亡
平成 14 年 11 月 25 日	大字大塚・住宅火災
平成 15 年 1 月 24 日	海岸町・住宅火災で 1 人死亡
平成 15 年 1 月 25 日	白山町南出・建物火災
平成 15 年 4 月 20 日	中河原・住宅火災で 1 人死亡
平成 15 年 5 月 9 日	大門・飲食店等 3 棟全半焼
平成 15 年 9 月 18 日	八知・建物火災（住宅）全焼
平成 16 年 2 月 1 日	家所・農業倉庫 1 棟全焼
平成 16 年 3 月	黒田地区山林連続放火
平成 16 年 5 月 9 日	一志町八太・建物火災 2 人死亡
平成 16 年 9 月 16 日	日南田・美里建設その他火災
平成 16 年 9 月	森町・工場（産業廃棄）全焼
平成 16 年 11 月 9 日	太郎生・建物火災（住宅）全焼
平成 16 年 12 月 27 日	一志町高野・建物火災
平成 17 年 2 月 14 日	平木・住宅 1 棟全焼 1 人死亡
平成 17 年 10 月 8 日	太郎生・建物火災（住宅）全焼
平成 17 年 11 月 2 日	三多気・建物火災（住宅）全焼
平成 17 年 11 月 23 日	森町・建物火災（住宅）全焼
平成 17 年 12 月 26 日	上浜町・建物火災 2 人負傷
平成 18 年 2 月 22 日	南中央・建物火災（住宅）全焼
平成 18 年 3 月 19 日	波瀬・車両火災 1 台全焼 1 人死亡
平成 18 年 9 月 26 日	山田野・建物火災（住宅）全焼
平成 18 年 10 月 7 日	香良洲町稲葉・車両火災 全焼 2 人死亡
平成 18 年 11 月 15 日	波瀬・建物火災 全焼 1 人死亡
平成 19 年 1 月 13 日	中縄・建物火災 全焼 1 人死亡
平成 19 年 2 月 3 日	下多気・建物火災 全焼 1 人死亡

年 月 日	火災の場所・被害等
平成19年 5月11日	押加部町・建物火災 全焼 2人死亡
平成19年 10月5日	乙部・建物火災 全焼 1人死亡
平成19年 11月29日	江戸橋2丁目・建物火災 全焼 4人負傷
平成20年 1月 3日	山田野・建物火災 全焼 1人死亡
平成20年 1月17日	久居元町・建物火災 全焼 1人死亡
平成20年 2月10日	香良洲町・建物火災 全焼 1人死亡
平成20年 5月17日	美里町家所・建物火災 軽微 1人死亡
平成20年 6月18日	半田・建物火災 全焼 1人死亡
平成20年 10月9日	持川町・建物火災 全焼 1人死亡 1人負傷
平成20年 10月21日	白山町川口・建物火災 全焼
平成21年 3月27日	戸木町・車両火災 全焼 1人死亡
平成21年 3月30日	大里睦合町・建物火災 全焼 1人死亡
平成21年 9月 1日	大鳥町・建物火災 全焼 1人死亡
平成21年 9月11日	藤方・車両火災 1人死亡
平成21年 12月25日	高茶屋七丁目・建物火災 全焼 1人死亡
平成22年 1月 1日	美杉町太郎生・建物火災 全焼 1人死亡
平成22年 7月26日	久居本町・建物火災 全焼
平成22年 10月15日	戸木町・建物火災 全焼 1人死亡
平成22年 10月27日	久居中町・建物火災 全焼 2人死亡
平成22年 11月30日	一志町波瀬・建物火災 全焼 1人死亡 1人負傷
平成22年 12月22日	美杉町杉平・建物火災 全焼 1人死亡
平成23年 2月 4日	高茶屋三丁目・建物火災 全焼 1人死亡
平成23年 12月17日	芸濃町雲林院・建物火災 全焼 1人死亡
平成23年 12月31日	城山一丁目・建物火災 全焼 1人負傷
平成24年 2月24日	木造町・建物火災 全焼 1人負傷
平成24年 5月24日	白山町上ノ村・建物火災 全焼 2人負傷
平成24年 9月26日	城山二丁目・建物火災 全焼 1人死亡
平成25年 1月 2日	西鷹跡町・建物火災 全焼 1人死亡
平成25年 2月 3日	城山一丁目・建物火災 全焼 1人負傷
平成25年 4月22日	河芸町中別保・建物火災 4棟全焼
平成25年 5月28日	高茶屋小森町・建物火災 全焼 3人死亡

※林野火災・その他火災等軽微なものは省略

3 過去の主な地震災害（危機管理部）

年月日	地域(地震名)	マグニチュード	被害
天武 13 年 10 月 14 日	土佐 その他南海東海	8.4	山崩れ、河湧き、家屋社寺の破壊人畜の死傷多く津波来襲、土佐で田約 12k m ² 海中に沈む。
仁和 3 年 7 月 30 日	五畿七道	8.6	京都の民家官庁の倒壊多く、圧死者多数、津波来襲。
嘉保(永長 1)3 年 11 月 24 日	畿内、東海道	8.4	東大寺の巨鐘落ち、諸寺に被害。余震多く、津波伊勢、駿寺を襲い駿河で社寺民家流失 400 棟余。
承德(慶和 1)3 年 1 月 24 日	畿内	8.0	興福寺西金堂壊れ、大門が倒れた。土地で田千余町皆海底に沈む。
正平 16 年 6 月 24 日	畿内、土佐、 阿波	8.4	山城、摂津より紀州熊野に至る諸堂倒壊破損多かつた。津波により阿波雪湊で流出 1,700 棟、流死 60 人余。
明応 7 年 7 月 25 日	東海道全般	8.6	紀伊から房総に至る海岸と甲斐で振動強く、津波が紀伊から房総に至る海岸を襲い、伊勢大湊で流出 1,000 棟、溺死 5,000 人、静岡県志太郡地方で流死 26,000 人、伊勢志摩で溺死 10,000 人という。浜名湖海に通じた。
文禄(慶長 1)5 年 7 月 12 日	豊後	6.7	3 日より前震、12 日夕刻大地震、高崎山などくずれる。大津波来襲。佐賀関で、崖くずれ、家屋倒れ、60 余町歩流没、瓜生島 80%陥没、死者 708 人。
慶長 9 年 12 月 16 日	東海、南海、 西海諸道	7.9	淡路島、安坂村、千光寺で諸堂倒れ仏像が飛散る。津波は、犬吠岬より九州に至り、八丈島で死者 57 人、三崎で溺死 153 人、浜名湖付近の橋本で 80 棟流失し、死者多く、紀州西岸広村で 1,700 戸流失、阿波の鞆浦で死者 100 人余。宍喰で死者 1,500 人余。土佐甲浦で死者 350 人余、崎浜で 50 人余、室戸岬付近で 400 人余。
慶長 16 年 10 月 28 日	三陸および 北海道東岸	8.1	三陸地方で強震、震害軽く、津波の被害大、伊達領内で死者 1,783 人、南部、津軽で人馬死 3,000 余。三陸地方で家屋流失多く、溺死者 1,000 人をこえた。
元禄 16 年 11 月 23 日	江戸、関東諸国	8.2	小田原領土で出火し壊家 8,007 棟、死者 2,291 人、江戸本所あたり壊家が多かつた。津波は下田から犬吠岬に至る海岸に押寄せ。震災地を通じ、壊家 20,162 棟、死者約 5,233 人。
宝永 4 年 10 月 4 日	五畿七道	8.4	全体で潰家 29,000 棟、死者 4,900 人家屋倒壊範囲は、東海道から中国、九州に及ぶ。震害は、東海道、伊勢湾紀伊半島で最もひどく、袋井全滅、田辺で 158 棟つぶれ、大阪壊家 1,061 棟、死者 734 人、徳島で 680 棟倒壊、津波は伊豆半島から九州に至る沿岸を襲い瀬戸内海にも達した。土佐で流家 11,170 棟、死者 1,844 人、尾鷲で死者 1,000 人余。
天明 2 年 7 月 14 日	相模、武蔵(天明の 大地震)	7.4	小田原城の櫓、石垣破損。民家倒壊 1,000 棟、津波あり。江戸で、壊家死者があつた。
弘化 4 年 3 月 24 日	北信および越後西部 (善光寺地震)	7.4	被害範囲は、高田から松本、上田に至る南北 90km の地域。壊家 29,633 棟、死者 8,600 人余、断層を生じ、落差 2.4m。川が堰止められ数十力村が水没した。4 月 13 日に決壊洪水を生じた。
嘉永 7 年 11 月 4 日	東海、東山、南海 諸道(安政地震)	8.4	家屋倒壊範囲は伊豆から、伊勢に至る沿岸と、甲斐、信濃、近江、越前、加賀に及ぶ。津波あり。倒壊流失 8,300 棟余、焼失 600 棟、圧死 300 人、流死 300 人。
嘉永 7 年 11 月 5 日	畿内、東海、東山、 北陸、南海、山陰、 山陽道(安政地震)	8.4	前の地震の 32 時間後。被害は、近畿、中国、四国全部と九州、中部地方の一部に及ぶ。津波があり、全壊 20,000 棟、半壊 40,000 棟、焼失 6,000 棟、流失 15,000 棟、死者約 30,000 人。

年月日	地域(地震名)	マグニチュード	被害
安政2年 10月2日	江戸(安政江戸地震)	6.9	江戸とその東、径20kmの範囲に被害大。山手で被害は少なく、下町被害大。江戸の被害壊家焼失14,364棟、死者7,000人余。有感半径500kmに達した。出火30余カ所。焼失面積2.3k㎡。
安政5年 2月26日	飛騨、越前、越中、加賀	6.9	飛騨北部で全壊319棟、半壊385棟、死者203人。山くずれが多く、成願寺川上流止められ、3月10日、4月26日泥水を押出し、金沢領で流失家屋1,612棟、溺死140人。
明治24年 10月28日	岐阜、愛知(濃尾地震)	8.4	仙台以南で地震を感じた。建物全壊142,117棟、半壊80,184棟、死者7,273人、山くずれ1万余。根尾谷を通る大断層を生じた。
明治27年 6月20日	東京湾北部	7.5	青森から中国、四国地方まで地震を感ずる。東京の被害は大、神田本所、深川に全半壊多く、死者24人。
明治27年 10月22日	庄内地方	7.3	酒田付近で被害が著しく、被害は山形、本庄に及ぶ。山形県下で全壊3,858棟、半壊2,397棟、焼失2,148棟、死者726人。
明治28年 1月18日	利根川上流	7.3	北海道、四国、中国の一部まで、地震を感じた。被害範囲は関東東半分。全壊47棟、死者9人。
明治29年 6月15日	三陸沖	7.6	震害はない。津波は北海道より牡鹿半島に至る海岸に襲来し、死者27,122人、家屋流失全壊8,891棟、船の被害7,032件、津波はハワイ、カリフォルニアに達した。
大正10年 12月8日	茨城県竜ヶ崎	7.1	千葉、茨城県境付近に、家屋破損道路亀裂などの小被害があった。
大正12年 9月1日	関東南部 (関東大地震)	7.9	東京で観測した最大振幅14~20cm。地震後火災が発生し、被害が増大した。死者99,331人、行方不明者43,476人。山くずれ、崖くずれが多い。房総方面(木更津32cm、北条157cm)神奈川南部(大磯1182cm、藤沢75cm)は隆起し、東京付近以西神奈川北方は沈下した。また相模湾では、小田原一布良線以北は隆起、南は沈下した。関東沿岸に津波が来襲し、波高は三崎で6m、州の崎で8.1m。
昭和2年 2月7日	京都府北西部 (北丹後地震)	7.1	被害は淡路、福井、岡山、米子、徳島、三重、香川、大阪に及ぶ。死者2,925人、家屋全壊12,584棟、焼失3,711棟。郷村断層(長さ18km、水平ずれ最大2.7m)と、それに直交する山田断層(長さ7km)を生じた。
昭和2年 10月27日	新潟県三島郡(関原地震)	5.3	負傷2人、家屋半壊23棟、宮本村の田園内に石油ガス噴出孔を生じた。
昭和5年 11月26日	伊豆北部 (北伊豆地震)	7.0	死者272人、家屋全壊2,165棟、山くずれ、崖くずれが多く、丹郡断層(長さ35km、横ずれ最大2~3m)と、直交する加殿断層および原保断層を生じた。
昭和6年 9月21日	埼玉県西部 (西埼玉地震)	7.0	死者16人、家屋全壊206棟。
昭和8年 3月3日	三陸沖 (三陸沖地震津波)	8.3	震害はなかった。津波が太平洋岸を襲い、三陸沿岸で被害は甚大。死者3,008人、家屋流失4,917棟、倒壊2,346棟、浸水4,329棟、船舶流失7,303棟、波高は、田老10.1m、白浜23.0m、綾里25.0m、銚子0.2m。
昭和13年 1月12日	和歌山県南方沖 (田辺湾地震)	6.8	被害不明。
昭和18年 9月10日	鳥取市付近 (鳥取地震)	7.2	死者1,083人、家屋全壊7,485棟、半壊6,158棟、鹿野断層(長さ8km、横ずれ最大150cm)吉岡断層(長さ4.5km)を生じた。

年月日	地域(地震名)	マグニチュード	被害
昭和 19 年 12 月 7 日	三重県南東沖 (東南海地震)	7.9	静岡、愛知、三重、岐阜、奈良、滋賀各県、特に名古屋重工業地区に被害が大きかった。死者 998 人、住家全壊 26,130 棟、半壊 46,950 棟、流失 3,059 棟、津波が各地に襲来した。
昭和 20 年 1 月 13 日	愛知県南部 (三河地震)	6.8	規模の割に被害は大きく、死者 1,961 人、住家全壊 5,539 棟、半壊 11,706 棟、非住家全壊 6,603 棟、深溝断層(途中で直角に折曲り、延長 9km、上下ずれ最大 2m)を生じた。
昭和 21 年 12 月 21 日	和歌山県南方沖 (南海地震)	8.0	被害は中部以西日本各地にわたり、死者 1,330 人、行方不明 102 人、家屋全壊 11,591 棟、半壊 23,487 棟、流出 1,451 棟、浸水 33,093 棟、焼失 2,593 棟、船舶破損流出 2,991 件、津波あり、高知付近で田圃 15k m ² が海面下に没した。
昭和 23 年 6 月 28 日	福井平野 (福井地震)	7.3	被害は福井平野およびその付近に限られ、死者 3,895 人、家屋倒壊 35,420 棟、半壊 11,449 棟、焼失 3,691 棟。南北に地割れの連続としての断層(延長約 25km)が生じた。
昭和 24 年 12 月 26 日 1 回目：08h17m 2 回目：08h25m	今市付近 (今市地震)	6.4 6.7	死者 8 人、住家全壊 290 棟、半壊 2,994 棟、非住家全壊 583 棟、被害は石造建物に多く、崖くずれなどの地変約 60 箇所余。
昭和 27 年 3 月 4 日	十勝沖 (十勝沖地震)	8.1	北海道南部、東北地方北部に被害があり、津波が関東地方に及ぶ。死者 28 人、不明 5 人、家屋全壊 815 棟、半壊 1,324 棟、流失 91 棟。
昭和 27 年 3 月 7 日	能登半島 (大聖寺沖地震)	6.8	福井、石川両県で、死者 7 人、家屋半壊 4 棟、焼失 27 棟。
昭和 27 年 7 月 18 日	奈良県 (吉野地震)	6.7	震源の深さ 70km。愛知、岐阜、石川県にも小被害あり、死者 9 人、住家全壊 20 棟。
昭和 28 年 9 月 26 日	房総沖 (房総沖地震)	7.5	道路亀裂(伊豆諸島)、発電所鉄管亀裂(八丈島)など、関東沿岸に小津波。
昭和 35 年 5 月 23 日	チリ沖 (チリ地震津波)	8.5	24 日 2 時頃から津波日本沿岸各地に襲来。波高は三陸沿岸 5~6m、その他で 3~4m。死者 119 人、行方不明 20 人、家屋全壊 1,571 棟、半壊 2,183 棟、流失 1,259 棟。
昭和 36 年 8 月 19 日	石川県加賀地方 (北美濃地震)	7.0	福井、岐阜、石川三県に被害があった。死者 8 人、家屋全壊 12 棟、山くずれ 99 箇所。
昭和 36 年 6 月 30 日	宮城県北部 (宮城県北部地震)	6.5	築館、石越、小半田近径 40km の範囲に被害が集中した。死者 3 人、住家全壊 369 棟、半壊 1,542 棟、橋梁、道路、鉄道の被害が多かった。
昭和 38 年 3 月 27 日	若狭湾 (越前岬沖地震)	6.9	敦賀、小浜間に小被害があり、住家全半壊 6 棟、その他小被害があった。
昭和 39 年 6 月 16 日	新潟県沖粟島付近 (新潟地震)	7.5	新潟、秋田、山形の各県に被害があり、死者 26 人、家屋全壊 1,960 棟、半壊 6,640 棟、浸水 15,297 棟、船舶、道路の被害が多かった。新潟市内で地盤の流動、不同沈下による震害が著しかった。津波が日本沿岸一帯を襲った。
昭和 40 年 9 月 3 日	長野県松代周辺 (松代群発地震)		1965 年 8 月に松代皆神山付近に始まり、順次、須坂、東村、若穂、更北、篠井、川中島、更植、戸倉、上山田、坂井、坂城、真田などに広がる。1969 年末までに松代で有感地震 62,621 回、震度 5 : 9 回、震度 4 : 50 回、地震数は 1966 年 4 月と 8 月が最大。被害を伴った地震は 50 回、全体で負傷者 15 人、全壊家屋 10 棟、半壊 4 棟、地すべり 64 箇所、総エネルギー M=6.3 に相当。この間に皆神山 1m 隆起した。

年月日	地域(地震名)	マグニチュード	被害
昭和43年 2月21日	宮崎県えびの町 (えびの地震)	5.7	同日再震、翌日再々震、死者3人、負傷者42人、建物全壊368棟、半壊636棟、山くずれが多かった。3月25日に2回地震、建物全壊18棟、半壊147棟。
昭和43年 6月1日	日向灘 (1968年日向灘地震)	7.5	小津波があり、負傷者57人、住家全壊2棟、半壊38棟、浸水56棟。
昭和43年 5月16日	十勝沖 (1968年十勝沖地震)	7.9	青森を中心に北海道南部、東北地方に被害、死者49人、不明3人、負傷者330人、建物全壊673棟、半壊3,004棟、青森県下山くずれ多く津波あり。浸水527棟、船舶流失沈没127件、コンクリート造の建物の被害が目立つ。
昭和44年 9月9日	岐阜中部	7.9	被害不明。
昭和47年 2月29日	八丈島東方沖 (八丈島近海地震)	7.0	八丈島で落石、土砂崩れ、亀裂などの道路の被害115箇所、水道管破裂の破損による断水2,150世帯。
昭和47年 12月4日	八丈島東方沖 (八丈島東方沖地震)	7.2	八丈島と青ヶ島で落石4件、土砂崩壊、道路破損などの小被害。
昭和48年 6月17日	根室半島沖 (根室半島沖地震)	7.4	負傷者26人、家屋全壊2棟、波高は根室で約1.5m、浸水275棟、船舶流失没10艘。
昭和49年 5月9日	伊豆半島沖地震 (1974年伊豆半島沖地震)	6.9	死者・不明者29人、負傷者78人、家屋全壊46棟、同半壊125棟、同一部破損711棟、同全半焼7棟。御前崎に最大波高22cmの津波。
昭和53年 1月14日	伊豆大島近海		死者3人、行方不明者2人、家屋全半壊603棟。
昭和53年 6月12日	宮城沖 (宮城沖地震)	7.5	死者28人、行方不明者1人、負傷360人、家屋全半壊262棟。
昭和55年 6月29日	伊豆半島地震	6.7 5.4	負傷者8人、家屋の破損、山崩れ、道路の破損、鉄道の損壊、津波大島岡田港57cm、千葉県南部の布長18cm。
昭和55年 9月24日	関東地方南部	5.4	負傷者5人。
昭和55年 9月25日	関東地方南東部	6.1	死者2人、負傷者73人、家屋の損壊。
昭和57年 3月21日	北海道日高市庁 浦河町南西沖 (浦河沖地震)	7.3	重傷者12人、軽傷者121人、家屋の全壊8棟、家屋の半壊13棟、一部破損127棟、農業施設、土木施設に多数被害あり。
昭和58年 5月26日	日本海中部地震	7.7	死者104人、負傷者324人、家屋全壊1,584棟、家屋半壊3,515棟、一部破損5,962棟、り災者21,517人、土木施設、農林水産関係、中小企業関係に被害甚大津波江差7.8cm、深浦55cm、函館53cm。
昭和59年 9月14日	長野県西部地震	6.9	死者24人、行方不明者5人、負傷者10人、家屋全壊14棟、家屋半壊73棟、一部破損517棟、土木施設、農林関係に多数被害あり。
平成2年 11月7日	雲仙、普賢岳噴火 災害		死者41人、負傷者11人、行方不明3人、家屋全壊1,586棟、同半壊279棟、同一部破損221棟、土木、農林関係被害甚大。噴火から火砕流、土石流を繰り返しながら火山活動は治まらず、立入禁止の警戒区域の指定が続き、住民は不自由な避難生活をし、自宅、職場にもどれず災害史上例のない苦い経験をしている災害である。

年月日	地域(地震名)	マグニチュード	被害
平成5年 1月15日	北海道釧路沖地震	7.5	死者2人、負傷者314人、家屋全壊5棟、同半壊4棟、同一部破損201棟、火災害5件、地盤液状化現象が市内随所で発生、ガス施設、港湾施設に被害大
平成5年 2月7日	能登半島沖地震	6.6	負傷者29人、家屋全壊1棟、同半壊4棟、同一部破損31棟
平成5年 7月12日	北海道南西沖地震	7.8	死者201人、負傷者305人、行方不明者30人、家屋全壊567棟、同半壊299棟、同一部破損2,691棟、床上浸水225棟、床下浸水236棟ガス、水道、電話、電気、農林、土木関係に甚大な被害がでた。地震発生約5分後に大津波の来襲、そして火災の発生により奥尻島青苗地区の市街地が焼け野原と化し、被害が集中した。
平成6年 10月4日	北海道東方沖地震	8.1	釧路で震度6を記録し、80人余がけがを負った。
平成6年 12月28日	三陸はるか沖地震	7.5	八戸市で震度6、パチンコ店の天井が落下するなど青森県を中心に死者2人、負傷者285人。
平成7年 1月17日	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大地震)	7.3	死者5,502人、負傷者41,527人、行方不明者2人、家屋全壊100,282棟、一部破損185,756棟、火災294件のほか非住家3,675棟、文教施設766箇所、道路9,403箇所、橋梁321箇所、河川427箇所、崖くずれ367箇所、ブロック塀等1,385箇所被害、水道断水1,277,851戸、ガス供給停止856,835戸、停電1,111,640戸、電話不通286,231回線
平成16年 10月23日	新潟県中越地震	6.8	死者51人、負傷者4,805人、住家全壊3,185棟、住家半壊13,715棟等
平成17年 3月20日	福岡県西方沖	7.0	死者1人、負傷者1,087人、住家全壊133棟、住家半壊244棟等
平成19年 3月25日	能登半島地震	6.9	死者1人、負傷者356人、住家全壊684棟、住家半壊1,733棟等
平成19年 4月15日	三重県中部	5.4	負傷者13人 等
平成19年 7月16日	新潟県中越沖地震	6.8	死者15人、負傷者2,345人、住家全壊1,319棟、住家半壊5,621棟 等
平成20年 6月14日	岩手・宮城内陸地震	7.2	死者・不明者23人、負傷者451人、住家全壊30棟、住家半壊143棟 等
平成20年 7月24日	岩手県沿岸北部	6.8	死者1人、負傷者211人、住家全壊1棟 等
平成21年 8月11日	駿河湾	6.5	死者1人、負傷者319人、住家半壊5棟 等
平成23年 3月11日	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	(Mw)9.0	死者15,859人、行方不明者3,021人、負傷者6,107人、住家全壊129,914棟、住家半壊258,591棟、住家一部破損711,376棟等

4 津市で震度4以上あった主な地震（危機管理部）

年 月 日	地域（地震名）	マグニチュード	震度	備 考
昭和11年2月21日	奈良県（河内大和地震）	6.4	4	
昭和13年1月12日	和歌山県南方沖	6.8	4	
昭和18年9月10日	鳥取県東部（鳥取地震）	7.2	4	
昭和19年12月7日	三重県南東沖（東南海地震）	7.9	6	
昭和19年12月12日	三重県南東沖	6.5	4	
昭和20年1月13日	三河湾（三河地震）	6.8	5	
昭和20年1月14日	三河湾	5.9	4	
昭和20年1月16日	愛知県西部	6.4	4	
昭和20年1月19日	愛知県西部	5.3	4	
昭和21年12月21日	和歌山県南方沖（南海地震）	8.0	5	
昭和27年7月18日	奈良県（吉野地震）	6.7	4	
昭和35年12月26日	三重県南部	6.0	4	
昭和36年8月19日	石川県加賀地方（北美濃地震）	7.0	4	
昭和38年3月27日	若狭湾（越前岬沖地震）	6.9	4	
昭和44年9月9日	岐阜県美濃中西部	6.6	4	
昭和46年1月5日	遠州灘	6.1	4	
平成7年1月17日	大阪湾（兵庫県南部地震）	7.3	4	
平成16年9月5日	三重県南東沖	7.4	5弱	
平成19年4月15日	三重県中部	5.4	5弱	